

# 会報

第 12 号



公益社団法人 神戸海難防止研究会

THE KOBE MARINE CASUALTY PREVENTION INSTITUTE

表紙写真

徳島小松島港

徳島県 県土整備部 提供

## 目 次

### 第25回 月 例 会 概 要

(1) 事業経過報告等.....	1
(2) 講演「神戸大学海事科学部の現況と機能強化」	
神戸大学大学院 海事科学研究科	
海事マネジメント科学講座	
教授 内 田 誠 氏	

### 第26回 月 例 会 概 要

(1) 事業経過報告等.....	7
(2) 講演「カーゴライナーとコンテナ船」	
海上交通システム研究会	
幹事 神 田 修 治 氏	

### 第27回 月 例 会 概 要

(1) 事業経過報告等.....	14
(2) 講演「運輸安全委員会の事故調査と再発防止策」	
運輸安全委員会事務局	
次席船舶事故調査官 吉 田 健 氏	

### 事 業 報 告

平成26年度第8回船積危険品研究委員会 .....	25
大阪港の大型クルーズ客船の入出港にかかる航行安全調査検討第1回委員会 .....	27
LNG船受入及び着離桟基準に係る航行安全対策調査第5回委員会 .....	30
平成26年度大型船の津波災害からの減災対策に関する調査研究第2回委員会 .....	32
平成26年度第9回船積危険品研究委員会 .....	35
大阪港の大型クルーズ客船の入出港にかかる航行安全調査検討ビジュアル式操船シミュレータ実験 .....	41
平成26年度和歌山下津港海岸（海南地区）工事に伴う船舶航行安全対策検討調査第1回委員会 .....	43
平成26年度漁船・漁具操業位置情報の提供方法等に関する調査研究第3回委員会 .....	46

大阪港航路泊地等整備に伴う航行安全対策検討調査第3回委員会 .....	48
平成26年度近畿・四国地方海難防止強調運動推進連絡会議地区推進母体連絡会議..	51
平成26年度第10回船積危険品研究委員会 .....	53
大阪港の大型クルーズ客船の入出港にかかる航行安全調査検討委員会検討部会 .....	55
平成26年度和歌山下津港海岸(海南地区)工事に伴う船舶航行安全対策検討調査 第2回委員会 .....	57
平成26年度大型船の津波災害からの減災対策に関する調査研究第3回委員会 .....	60
平成26年度明石海峡航行操船への津波の影響に関する調査研究第2回委員会 .....	63
大阪港の大型クルーズ客船の入出港にかかる航行安全調査検討第2回委員会 .....	65

## 会務報告

第25回業務運営会議.....	71
第26回業務運営会議.....	72
第27回業務運営会議.....	73
事務日誌抄 .....	74
お知らせ .....	75
霧海難防止キャンペーン	

## 第25回 月 例 会 概 要

1 日 時 平成27年1月27日(火)15:00~16:25  
2 場 所 神戸市立 こうべまちづくり会館 2階ホール  
3 出 席 者 22名

### 4 概 要

#### (1) 事業経過報告等

山本専務理事から事業報告及び会務報告が行われた。

#### (2) 講 演

神戸大学大学院 海事科学研究科 海事マネジメント科学講座 教授 内田 誠  
氏により、「神戸大学海事科学部の現況と機能強化」と題し、講演が行われた。

## 《第25回月例会講演資料》

### 「神戸大学海事科学部の現況と機能強化」

講師 神戸大学大学院 海事科学研究科  
海事マネジメント科学講座

教授 内田 誠 氏



内田 誠 uchida@maritime.kobe-u.ac.jp  
神戸商船大学 商船学部 機関学科  
川崎重工業株式会社 船舶事業本部神戸工場 修繕部機関課  
神戸商船大学 教務職員技官、助手、助教授  
大阪大学 内地研究員、学位取得 博士（工学）  
オーストラリア海事大学 文部省在外研究员  
イスタンブール工科大学海事学部 JICA長期派遣専門家  
神戸大学 助教授、教授

研究分野：船舶推進工学、船用機関工学、船舶機関管理学  
加入学会：JIME, JASNAOE, JIN, JMEA(賛助)  
<http://www.maritime.kobe-u.ac.jp/professors.Uchida.html>

3

内田 誠  
研究分野：

- 船舶推進工学、船用機関工学、船舶機関管理学  
JIME#81(東京), ISME#9(Kobe)
  - 機関シミュレータ環境下における人間反応計測  
JIME#76(東京), JIME#83(静岡), JIME#83(静岡),  
JIME#84(下関), ISME#10(Harbin)
  - 船舶機関管理におけるヒューマンファクター  
JIME#71(東京), IAMU#5(AMO), JIME#81(東京),  
JIME#82(高松), JIME#83(静岡), RINA(London),  
JIME#84(下関), JIME#48, Vol.49
- 5



公益社団法人神戸海難防止研究会 第25回月例会  
神戸大学 海事科学研究科 教授 内田誠  
神戸大学 大学院 海事科学研究科 教授 内田誠  
神戸市立にうべまちづくり会館 2015年1月27日(木)

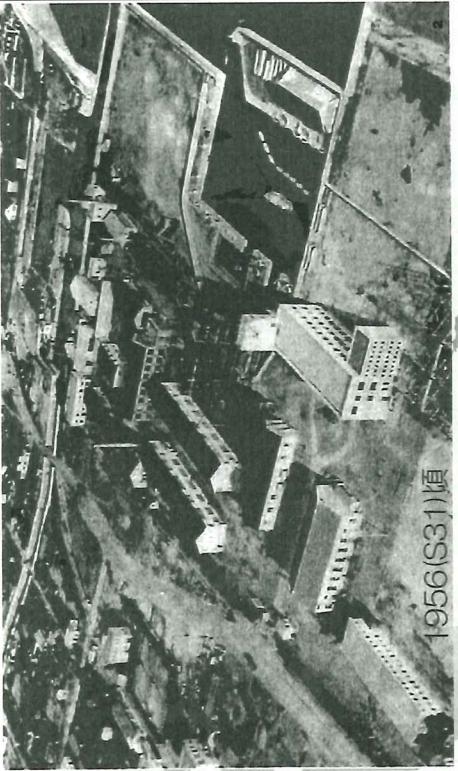
1

▶自己紹介  
▶船舶機関管理におけるヒューマンファクター  
▶海事科学部の基礎  
川崎商船学校、神戸高等商船学校、神戸商船大学  
▶海事科学部の学科改組(2013.4入学制以降カリキュラム)  
▶練習船「深江丸」教育関係共同利用拠点化  
▶神戸大学の産学連携支援  
▶大学の機能強化(改革の流れ)

2

海事科学部の歴史	
	<a href="http://www.kobe-u.ac.jp/info/outline/history/kaijikagaku.html">http://www.kobe-u.ac.jp/info/outline/history/kaijikagaku.html</a>
1917	川崎商船学校（川崎正蔵翁、川崎芳太郎氏）
1920	神戸高等商船学校（川崎武之助氏）
1952	神戸商船大学（議員立法）
2003	神戸大学海事科学部（大学統合）
2007	神戸大学大学院海事科学研究科（重点化大学院）

海事科学部の基礎	
1952	神戸商船大学商船学部 設置（議員立法）
1974	大学院商船学研究科（修士課程）設置
1997	大学院商船学研究科（博士課程）設置
2003	神戸大学海事科学部（大学統合）
	自然科学研究科海事科学専攻
	学校教育法（大学院の位置づけ）改正
2005	中教審答申 <a href="http://www.next.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/toushin/05090501.htm">http://www.next.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/toushin/05090501.htm</a>
	新時代の大学院教育－国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて
2007	神戸大学大学院海事科学研究科（重点化大学院）
2013	海事科学部創立10周年式典挙行
2015	学校教育法改正（学長力）バランス 施行
2017	海事科学部創基100周年



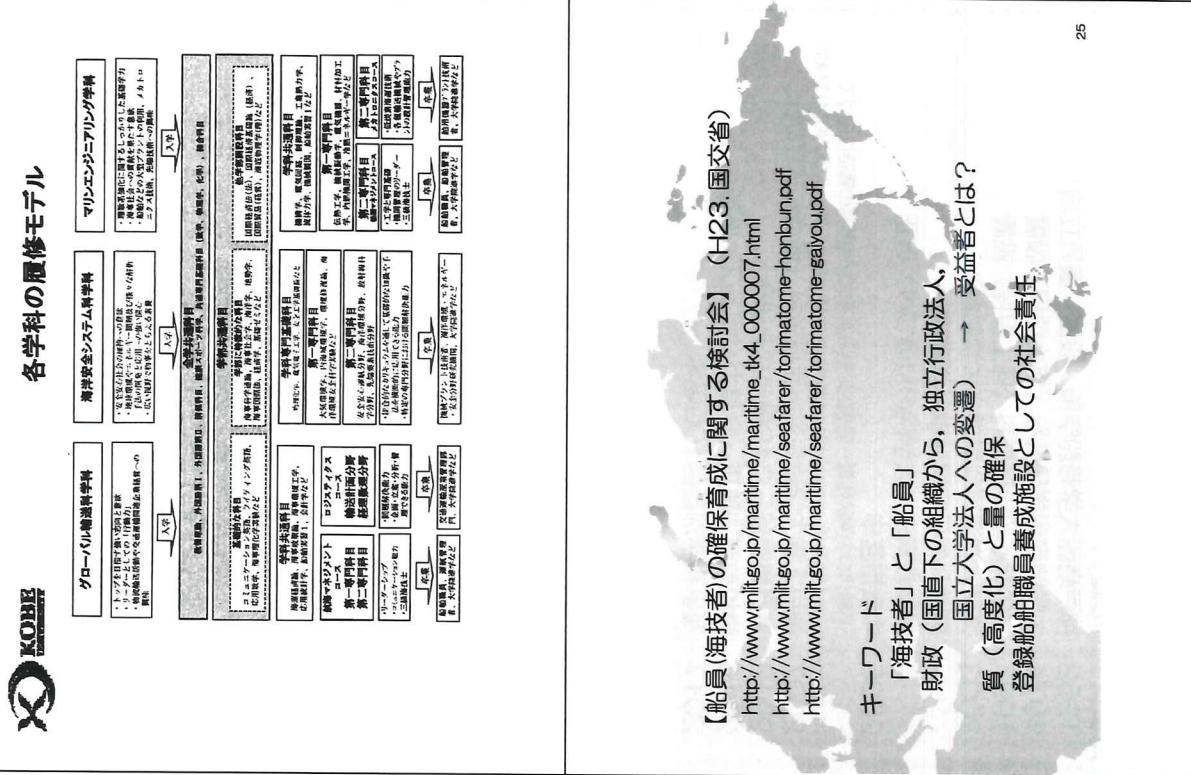
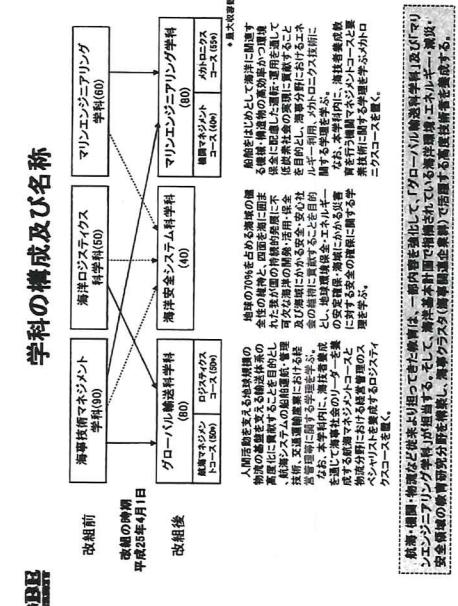
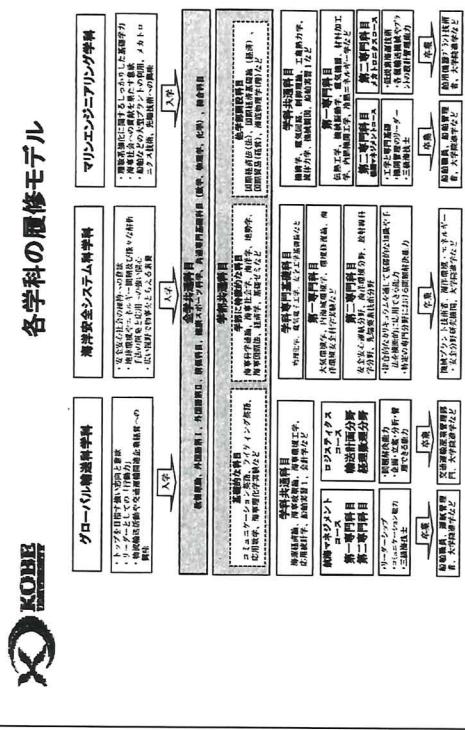
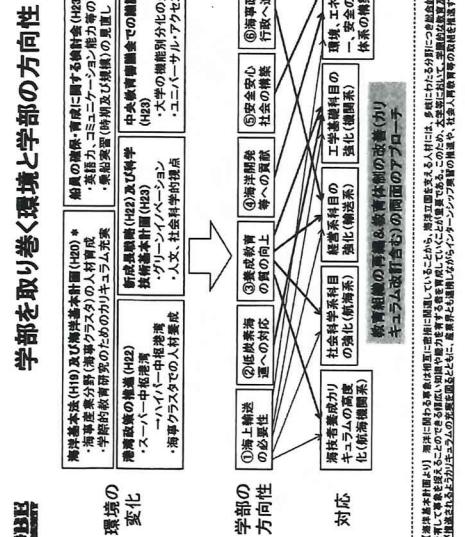
1956(S31)頃

海事科学部の学科改組 <2013(H25)>  
【海洋立国を支える会議者養成教育の高度化と総合性を  
備えたグローバル海事人材の養成】

<概要>

近年の海事社会の変化、海洋基本計画・科学技術基本計画などの  
方向付け、ならびに大学教育の実質化へ対応する。

- 1) 学科構成の変更（学部総入学定員は変更なし）
- 2) カリキュラム等の改訂
- 3) 入試方法、学科選択時期等の一部変更



【海事科学部授業時間割】  
海事科学部・海事科学研究科 <http://www.maritime.kobe-u.ac.jp/>  
HOME >在学生の方へ>授業時間割表  
<http://www.maritime.kobe-u.ac.jp/campus/timetable.html>

【海事科学部授業シラバス（授業概要）】HOME >  
神戸大学 <http://www.kobe-u.ac.jp/index.html>  
HOME >>受験生の方 >> シラバス（学外公開用）  
<https://syllabus.kobe-u.ac.jp/kobe-ex/campus>

【海事科学部カリキュラムフロー】  
[http://www.maritime.kobe-u.ac.jp/undergraduate/pdf/cu\\_flow.pdf](http://www.maritime.kobe-u.ac.jp/undergraduate/pdf/cu_flow.pdf)

\* 2014年度、1、2年生は新カリキュラム、3、4年生は改組前カリキュラム <sup>28</sup>

練習船「深江丸」教育関係共同利用拠点 認定  
[http://www.next.go.jp/b\\_menu/houdou/26/08/1350749.htm](http://www.next.go.jp/b_menu/houdou/26/08/1350749.htm)  
「グローバル海上輸送に関わる海事技術・漬瘍環境ヒューマンファクタの教育のための共同利用拠点」

2014.4. ~ 2015.3. 運航実績・予定  
練習船深江丸教育関係共同利用の申込みについて  
[http://www.maritime.kobe-u.ac.jp/joint\\_usage\\_fukaemaru/joint\\_usage\\_fukaemaru.html](http://www.maritime.kobe-u.ac.jp/joint_usage/fukaemaru/joint_usage_fukaemaru.html)

<sup>29</sup>

研究シーズ・教員要覧、 神戸大学の産学連携支援  
【連携創造本部】  
神戸大学における産学連携支援開運情報報  
神戸大学 <http://www.kobe-u.ac.jp/index.html>  
HOME » 企業・地域の方 » 連携創造本部  
<http://www.innov.kobe-u.ac.jp/index.html>

【研究シーズ】  
ホーム→共同研究・受託研究支援→研究者・研究シーズ等の紹介  
<http://www.innov.kobe-u.ac.jp/collaboration/research/index.html>  
分野別技術シーズ  
<http://www.innov.kobe-u.ac.jp/seads/list/index.html>

<sup>30</sup>

【協力研究】  
<http://www.innov.kobe-u.ac.jp/collaboration/collab-research/index.html>  
○ 共同型協力研究  
神戸大学の研究者と民間等の機関の研究者・技術者が  
共通の課題について、共同で行う研究。  
○ 受託型協力研究  
1. 神戸大学が民間の機関等から委託を受けて行う研究。  
2. 民間等の研究機関の研究者・技術者を神戸大学の  
研究室に受入れる制度。

【学術相談】  
<http://www.innov.kobe-u.ac.jp/collaboration/consultancy/index.html>  
連携創造本部のコーディネーターまたは学内研究者が、課題をふま  
えて、実情に応じた助言あるいは技術的なアドバイスを提供する制度

<sup>31</sup>

## 大学改革の流れ

- 【大学改革実行プラン】（H24.6 文部科学省）  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/24/06/1321798.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/24/06/1321798.htm)  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/24/06/\\_icsFiles/afieldfile/2012/06/25/1312798\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/24/06/_icsFiles/afieldfile/2012/06/25/1312798_01.pdf)  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/24/06/\\_csFiles/afieldfile/2012/06/05/1312798\\_02\\_2.pdf](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/24/06/_csFiles/afieldfile/2012/06/05/1312798_02_2.pdf)  
＜激しく変化する社会における大学の機能の再構築＞
  1. 大学教育の質的転換、大学入試改革
  2. クローバル化に応じた人材育成
  3. 地域再生の核となる大学づくり(COC : Center of Community)構想の推進
  4. 研究力強化（世界的な研究成果とノバーションの創出）
  5. 国立大学改革
  6. 大学改革を促すシステム・基盤整備
  7. 財政基盤の確立による資源配分の実施
  8. 大学の質保証の徹底推進

32

- 【中期目標・中期計画】（神戸大学、第Ⅱ期：H22.4.～H28.3.）  
文部科学省HP  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/houjin/1334049.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/houjin/1334049.htm)  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2013/05/01/1333924\\_14.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2013/05/01/1333924_14.pdf)  
神戸大学HP  
<http://www.kobe-u.ac.jp/info/project/plan/>  
海事科学研究科  
[http://www.maritime.kobe-u.ac.jp/staff/pdf/medium\\_term\\_plan3.pdf](http://www.maritime.kobe-u.ac.jp/staff/pdf/medium_term_plan3.pdf)  
【ミッションの再定義】（神戸大学海事科学部・大学院海事科学研究科）  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/houjin/1346509.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/houjin/1346509.htm)  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/houjin/\\_jcsFiles/afieldfile/2014/04/08/1346509\\_02.pdf](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/houjin/_jcsFiles/afieldfile/2014/04/08/1346509_02.pdf)  
【自己点検報告書】（神戸大学海事科学部・大学院海事科学研究科）  
<http://www.maritime.kobe-u.ac.jp/maritime/evaluation.htm>

35

## 【国立大学改革プラン】（H25.11.文部科学省）

- [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/houjin/1341970.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/houjin/1341970.htm)  
[http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/detail/\\_icsFiles/afieldfile/2013/12/18/1341974\\_01.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2013/12/18/1341974_01.pdf)

キーワード  
ミッションの再定義、大学機能強化、国際水準、  
教育研究拠点、グローバル化、イノベーション創出、  
ガバナンス機能の強化、運営交付金重点支援

## 【研究大学強化促進】

- [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kagaku/sokushinhi/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/sokushinhi/index.htm)  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/kagaku/sokushinhi/1338460.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/kagaku/sokushinhi/1338460.htm)
- 【国立大学改革強化推進】  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/26/11/1353466.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/11/1353466.htm)

34

36

## 第26回 月 例 会 概 要

1 日 時 平成27年2月23日(月)15:00～16:20

2 場 所 神戸市立 こうべまちづくり会館 2階ホール

3 出 席 者 25名

4 概 要

### (1) 事業経過報告等

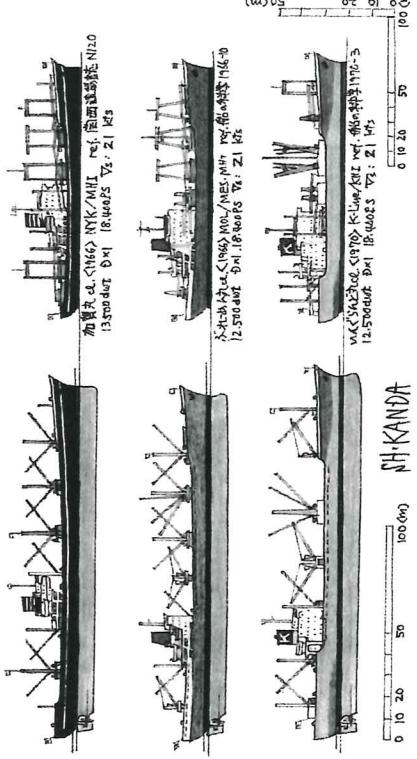
山本専務理事から事業報告及び会務報告が行われた。

### (2) 講 演

海上交通システム研究会 幹事 神田 修治 氏により「カーゴライナーとコンテナ船」と題し、講演が行われた。

日本外航海運大手三社の高速定期貨物船（往時）

日本外航海運大手三社の高速定期貨物船(往時)



スケッチは設計図をもとに作成 一般配管 General Arrangement

カーゴライナーとは (Cargo Liner 定期貨物船)

- いまとよく見かける船は各種専用船、鉱石船、ばら積船、油タンカー、自動車船 etc
  - それらの専用船に分かれるまるで一般貨物船といいぱー一般貨物船 General Cargo Ship
  - 一般貨物船・定期貨物船 Liner 一航路・日時を定めて運航、貨物は主に雑貨・高運賃
  - 定期貨物船 Tramp Ship Tramer - 貨物に応じて運航
  - 不定期貨物船のはじまり A. Greenway, Cargo Liners )
  - 1865年 A-Holt 力(蒸気機関) 駆船によるアジアへの定期航路 Blue Funnel line



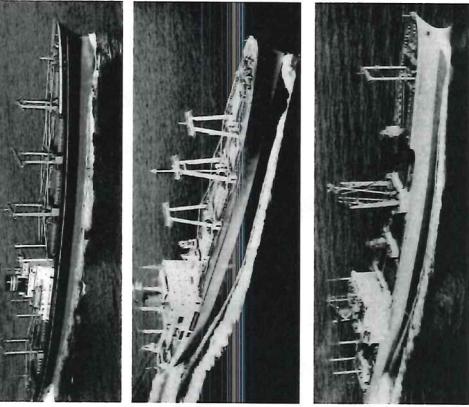
AGAMEMNON (I), AJAX (I) and ACHILLES (I)

本発表は日本を中心としたカーゴライナーの発達や船社の活動を述べる  
特に北米航路、欧州航路のカーゴライナーについて  
これらの船は船体が最も注力した、Flag Ship、カタチ美しい  
そして今、カーゴライナーの仕事はコンテナ船上に受け継がれている  
私はカーゴライナーの仕事はやらなかつたが、船好きの造船屋の視点

カーゴライナーと  
コンテナ船

神戸元町まちづくり会  
2015年2月23日  
第26回月例会  
神戸海難防止研究会

海上交通システム研究会 幹事  
技術士(船舶・海洋) 神田 修治  
BYF00454@nifty.ne.jp



川崎汽船K-Line いんぐらんど丸  
(船の科学 1970-03)

## 日本外航海運太手 カーゴライナーの例

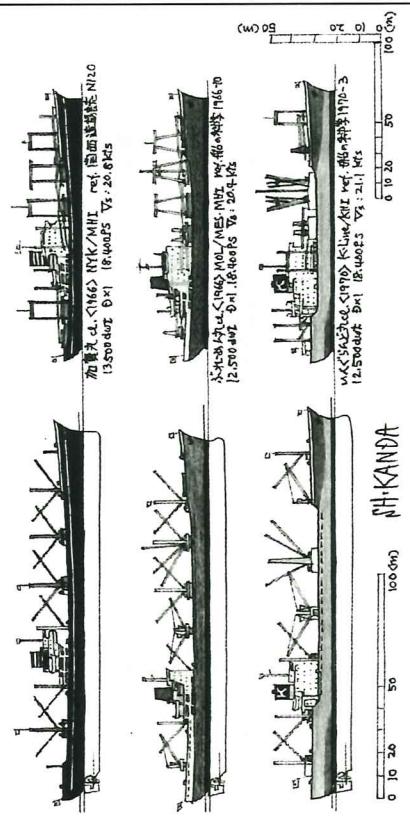
卷之三



商船三井MOLぶれーめん丸級  
(船の科学 1966-09)

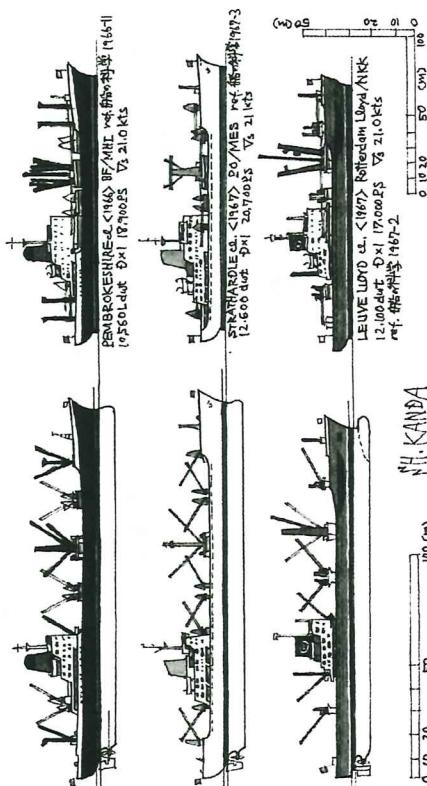


日本の超高速カーゴーライナー(船のカタチ-15)  
加賀丸<1966> ぶれ一めん丸<1966> いんぐらんんど丸<1970>  
欧洲定航せけ、21ノットの超高速

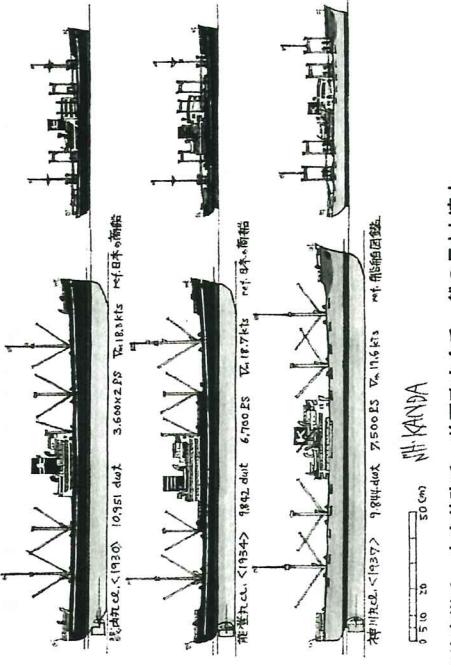


荷役装置 Port Speed 高速化の陸路

外国船主・日本建造のカーゴライナー(船のカタチ-16)  
PEMBROKE SHIER<1966> STRATHARDLE<1967> LEUVILLE LLOYD<1967>  
日本のカーゴライナー優秀の評判 → 外国名門船社から発注あり

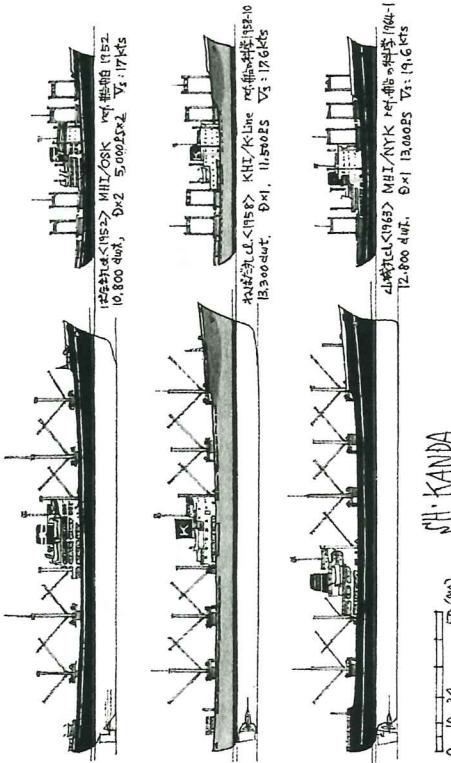


1930年代の日本のカーゴーライナー (船のカタチ-13)  
畿内丸<1930> 能登丸<1934> 神川丸<1937>

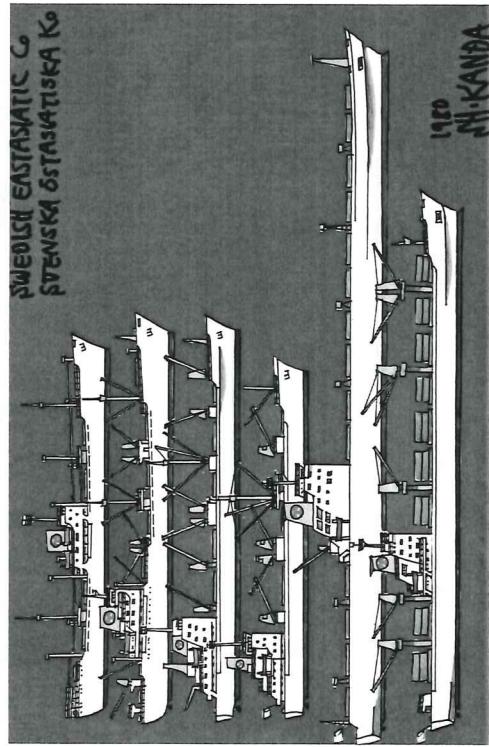


和辻善樹氏 有吉義弘氏 前野政之介氏 船の長さと速力  
その後145m級の優秀カーゴーライナーが続々建造されたが第二次大戦で壊滅

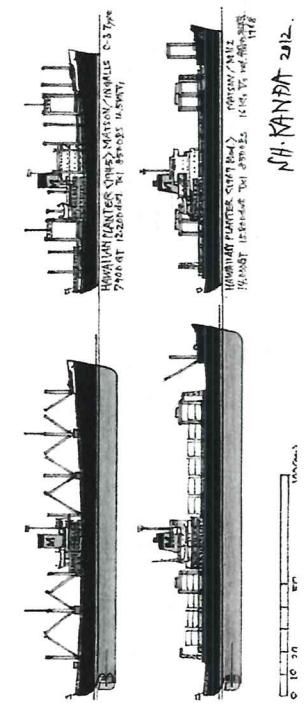
日本戦後のカーゴーライナーの発達 (船のカタチ-14)  
ばなま丸<1952> ねばだ丸<1958> 山城丸<1963>  
戦後の復興から新時代の技術開発へ



**SWEDISH EASTASIATIC社 カーゴライナーからコンテナ船へ**  
**JAPAN <1955>級、NAGASAKI <1961>級、HOKKAIDO <1966>級、  
 ISFAHAN <1969>級、NIHON <1972>級、NAGARA <1974>級、** (船のカタチ-19)



**日本におけるコンテナ船の始まり  
 MATSON社 C3貨物船 カーゴライナーのコンテナ船への改造  
 HAWAIIAN PLANTER<1945建造、1967改修—MHI>**



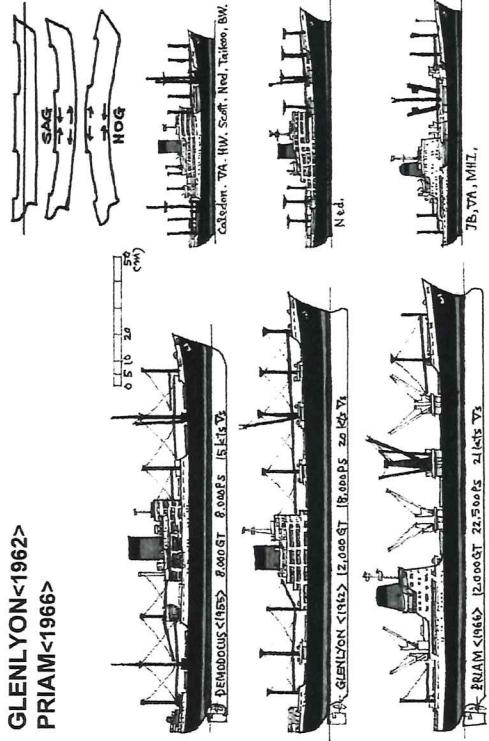
M.H. KANDA 2012.

**コンテナ化 → 船の高速化、大型化**

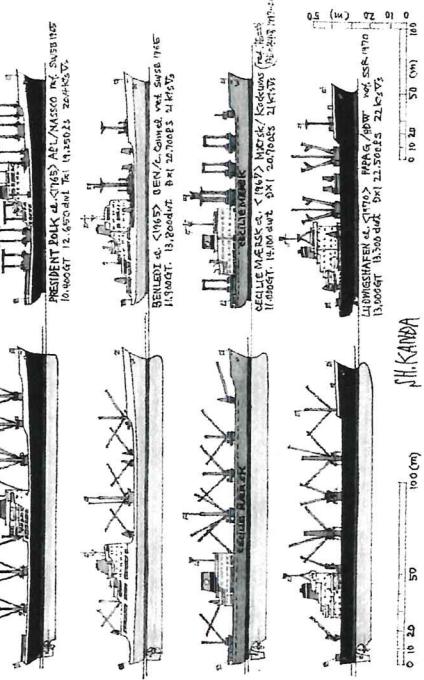
・荷役速度の飛躍的向上、雨天でも荷役可能  
**Port Speed向上、船の高速が意味あるものに → 高速化**

・イロイロの貨物をコンテナに詰め荷役統一 → 築荷、積載の合理化  
 産業発展、国際分業とあいまって貨物量増大 → 大型化

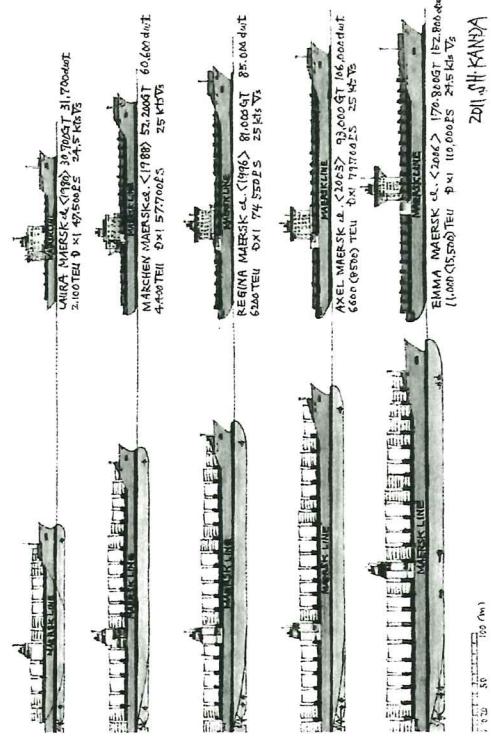
**Blue Funnel Line BF社のカーゴライナー（船のカタチ-17）**  
**DEMODOCUS<1955>  
 GLENLYON<1962>  
 PRIAM<1966>**



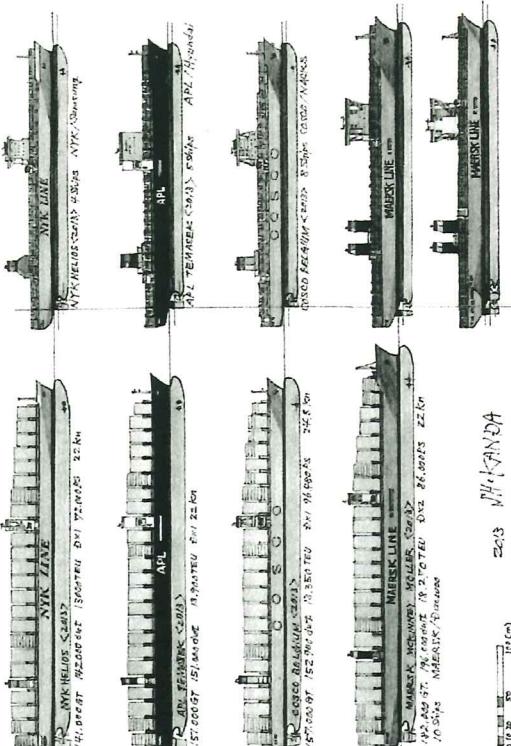
**外国船主・外国建造のカーゴライナー（船のカタチ-18）**  
**PRESIDENT POLK<1965> BENLEDI<1965>  
 CECILIE MAERSK<1967> LUDWICHSHAVEN<1970>**



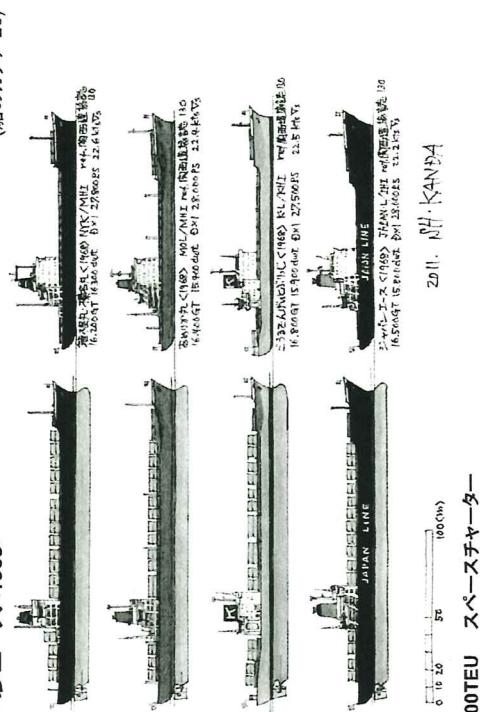
MAERSK社のコンテナ船  
保有数世界一、大型化のトッピングを行く



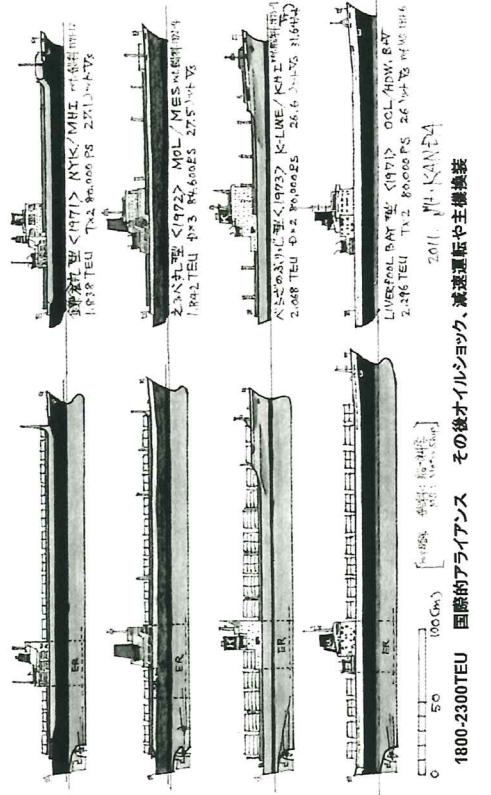
超大型コンテナ船 MEGA-CONTAINER CARRIER



日本の初期のコンテナ船（カリフォルニア航路）  
箱根丸<1968>級、アメリカ丸<1968>、ゴランでんげいとぶりつじ<1968>、  
ジャパンエース<1968>  
（船のカタチ-20）



超高速コンテナ船 欧州航路  
鎌倉丸 <1971>級、えるべ丸 <1972>、べらざのぶりじ <1973>級、  
LIVERPOOL BAY <1971> 鋼



## コンテナ船 MOL COMFORT事故

- ・乗員は全員避難生存
- ・船体貨物の損害は保険で補償
- ・船主MOLと造船所MHIは係争中
- ・事故原因は調査中

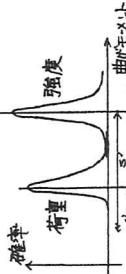
### 事故原因

- ・船体緑強度 ホギング サギング 曲げモーメント 応力
- ・材料 新開発47k高張力鋼 これが本船の壳り ハッチコーミングに使用
- ・海象条件 荒天 波浪 フリーク波（一発大波）
- ・荒天中運用 意図的減速

2014年9月 NK報告書が出された  
NK日本海事協会：大型コンテナ船安全検討会報告書 (i-net)にあり)

## コンテナ船 MOL COMFORT事故

2014年9月 NK報告書を読んで 私の理解と問題意識



余裕度につき本船と他のコンテナ船(16船)とを比較  
船体緑強度 強度規則に適合している  
しかしバランスキを考えると確率低いが起こりうる  
余裕度規則の余裕度 本船1.08～1.10 他船1.03～1.39 差はない  
最終強度(スミス法) 本船2.25 他船2.20～2.28 差はない  
最終強度(FEMミュレーション) 本船1.28 他船1.48～2.12 本船は小

最終強度 座屈による強度の低下 構造崩壊  
余裕度の二側面 ①安全性 ②未知要因への対策

残る問題点 ①乗員からの情報がない 海象 荒天中運用  
②運輸安全委員会はどうしているのか 旗国主義?

## ここまで のまどめ カーゴライナーからコンテナ船へ

- ・カーゴライナーといふ船種があつた。  
世界の名門船社が社運をかけて建造・整備した。Flag Ship  
高度な技術(高速・荷役設備)がチ美い船であった。
- ・日本の海運・造船はカーゴライナー開発の先端的・中核的活動をした。  
高性能、高経済の優秀船を開発・建造した。  
世界の船社に伍して優位な競争をやつた。  
外国の名門船社から日本造船所へ発注された。
- ・コンテナ化によりカーゴライナーはFlag Shipの座を降り 姦を消した。  
世界の多くの名門船社もコンテナ化の波により姿を消した。  
カーゴライナーの役割はコンテナ船に継承された。
- ・コンテナ船の世界では 大型化が進んでいる。 Mega Container Carrier  
Mega Container Carrierの建造は韓国が席巻、日本は川崎・NACKSが挑戦。
- ・コンテナ化—Port to Port の海運から Door to Door の物流へ。  
日本の大手三社はコンテナ化物流事業においても活躍している。

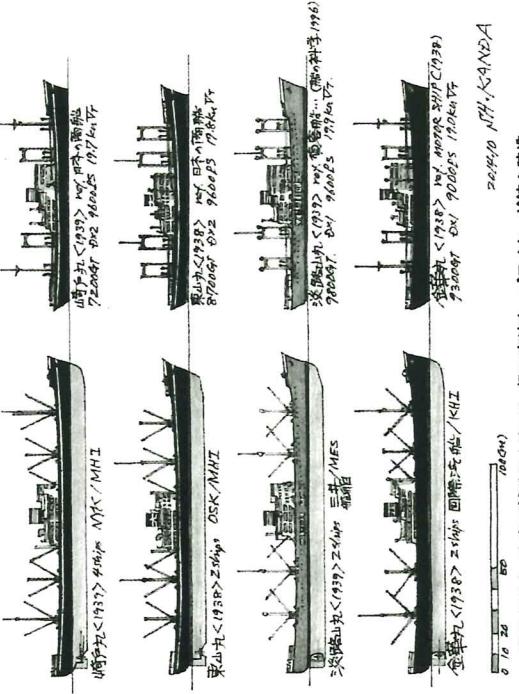
## コンテナ船 MOL COMFORT事故

日本時間 2013年6月17日 インド洋



I-NET

## 付録2 優秀船舶建造助成政策



戦闘の動き 政府の補助により145m級の高速カーゴライナーが様々建造。  
しかしそれらは太平洋戦争により漂流的な被害を受けた。

おわりに

- ・ カーゴライナーからコンテナ船への物語
- ・ MOL COMFORT事故とNK報告書
- ・ 船舶の安全、よい船、よい保守、よい操船
- ・ 海運界、船員界、造船界の協力が大切

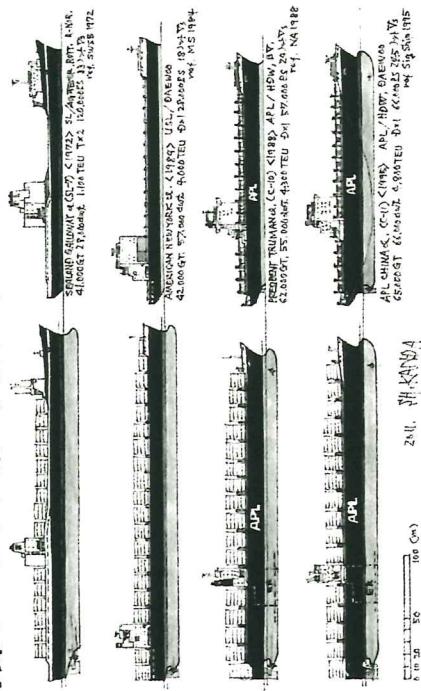
海上交通システム研究会(MTS研究会)

<http://mts-matrix.org/>

「船のカタチ」シリーズ（神田修治）

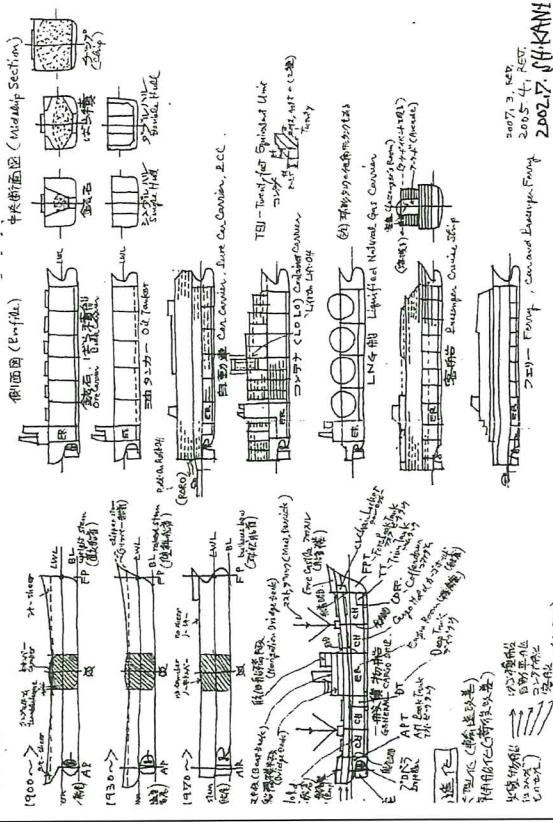
<http://kansai-senior.sumomo.ne.jp/gallery/>  
GoogleやYahooでシニアギャラリーと入れてでも出てきます

## 付録3 コンテナ船の失敗とその克服



コンテナ船 高速化と大型化  
高速化に導いたSealand Galloway コスト高くて失敗  
大型化に導いたAmerican NewYork 競走(競争)に負けて失敗  
高速化と大型化のバランス-APEL社成功

## 付録1 船の種類 よく見かけるもの 各種専用船 一般貨物船



## 第27回 月例会概要

1 日 時 平成27年3月24日(火)15:00~16:35  
2 場 所 神戸市立 こうべまちづくり会館 2階ホール  
3 出席者 23名  
4 概要

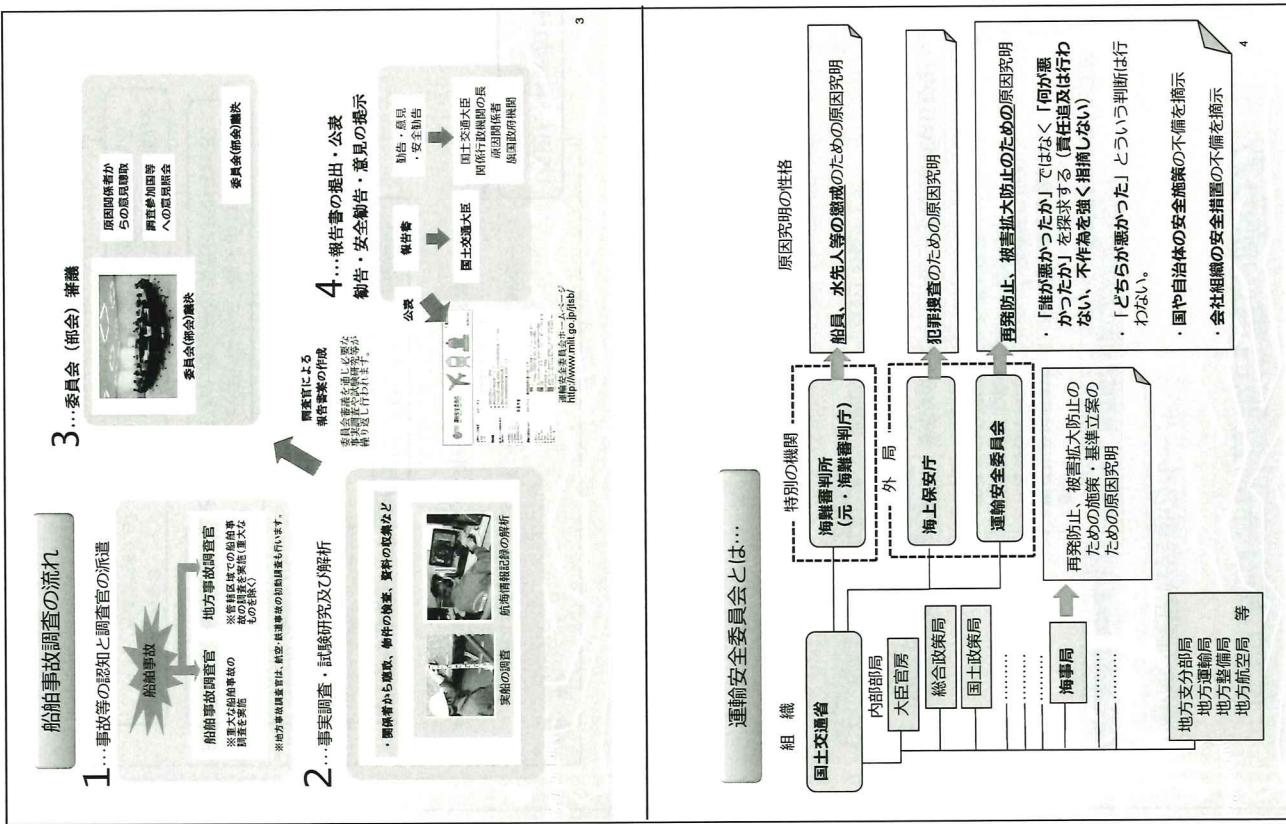
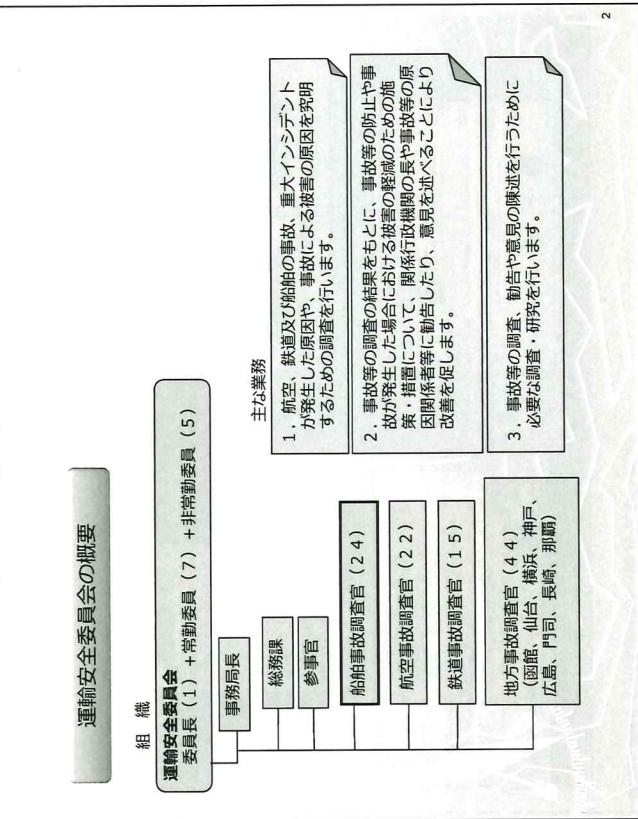
(1) 事業経過報告等

宮島事業部長から事業報告及び会務報告が行われた。

(2) 講演

運輸安全委員会事務局 次席船舶事故調査官 吉田 健 氏により「運輸安全委員会の事故調査と再発防止策」と題し、講演が行われた。

## 運輸安全委員会の事故調査と 再発防止策



## 事故に関する情報を検索・紹介するページ

報告書検索  
死傷等事故（船内労働災害を含む）に関する報告書検索

船舶事故等調査報告書の構成

第1章 船舶事故等調査の経過

第2章 事実情報

第3章 分析

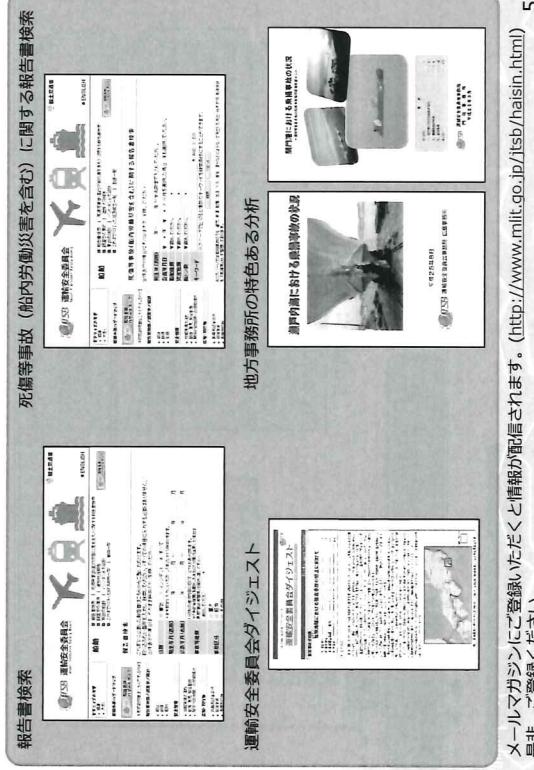
第4章 結論

第5章 再発防止策

第6章 助告、意見、安全勧告

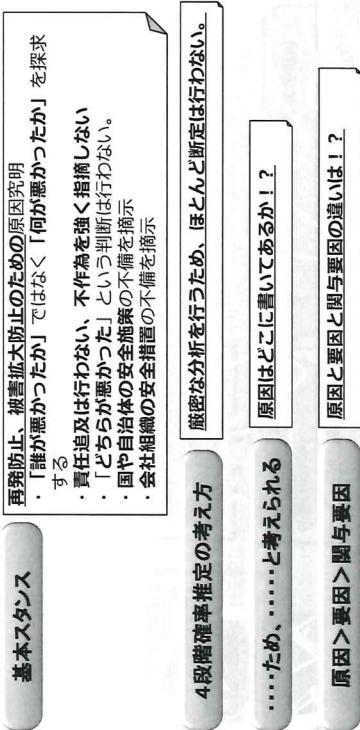
メールマガジンにご登録いただいくと情報が配信されます。（<http://www.mlit.go.jp/jitsb/haisin.html>）

是非、ご登録ください。



## 船舶事故等調査報告書の読み方

### 事故等調査報告書のリール



7

## 船舶事故等調査報告書の構成

「一般様式」と「特別様式」がちります。【特別様式】は原因が簡単なものや自撃者がいない場合などで使つ表形式の様式です。章立てしていないだけでも、だいたいの構成は「一般」も【特別】も同じです。

### 第1章 船舶事故等調査の経過

航行の経過、船舶、乗組員の情報、気象、海象情報、安全管理等

第2章 事実情報

第2章の事実情報から、航行の経過、見張り、操船、安全管理等の状況を分析

事故発生及び被害発生の原因

### 第3章 分析

分析や原因から導かれる事故防止や被害軽減のための教訓

国土交通大臣、関係行政機關の長、原因関係者、旗國政府等に対する提言

### 第4章 結論

分析や原因から導かれる事故防止や被害軽減のための教訓

国土交通大臣、関係行政機關の長、原因関係者、旗國政府等に対する提言

6

「原因」「再発防止策」で用いる語彙について

本報告書本文中に用いる分析の結果を表す用語の取扱いについて

本報告書本文中「3 分析」に用いる分析の結果を表す用語は、次のとおりとする。

① 断定できる場合  
…認められる

② 断定できないが、ほぼ間違いない場合  
…「推定される」

③ 可能性が高い場合  
…「考えられる」

④ 可能性がある場合  
…「可能性がある」

最もよく用いられる。個人の口述や記録（メモ）などが根柢の場合に用いられる。

食い違う口述や個人の心情など  
が根柢の場合に用いられる。

「参考」

本報告書本文中に用いる分析の結果を表す用語について

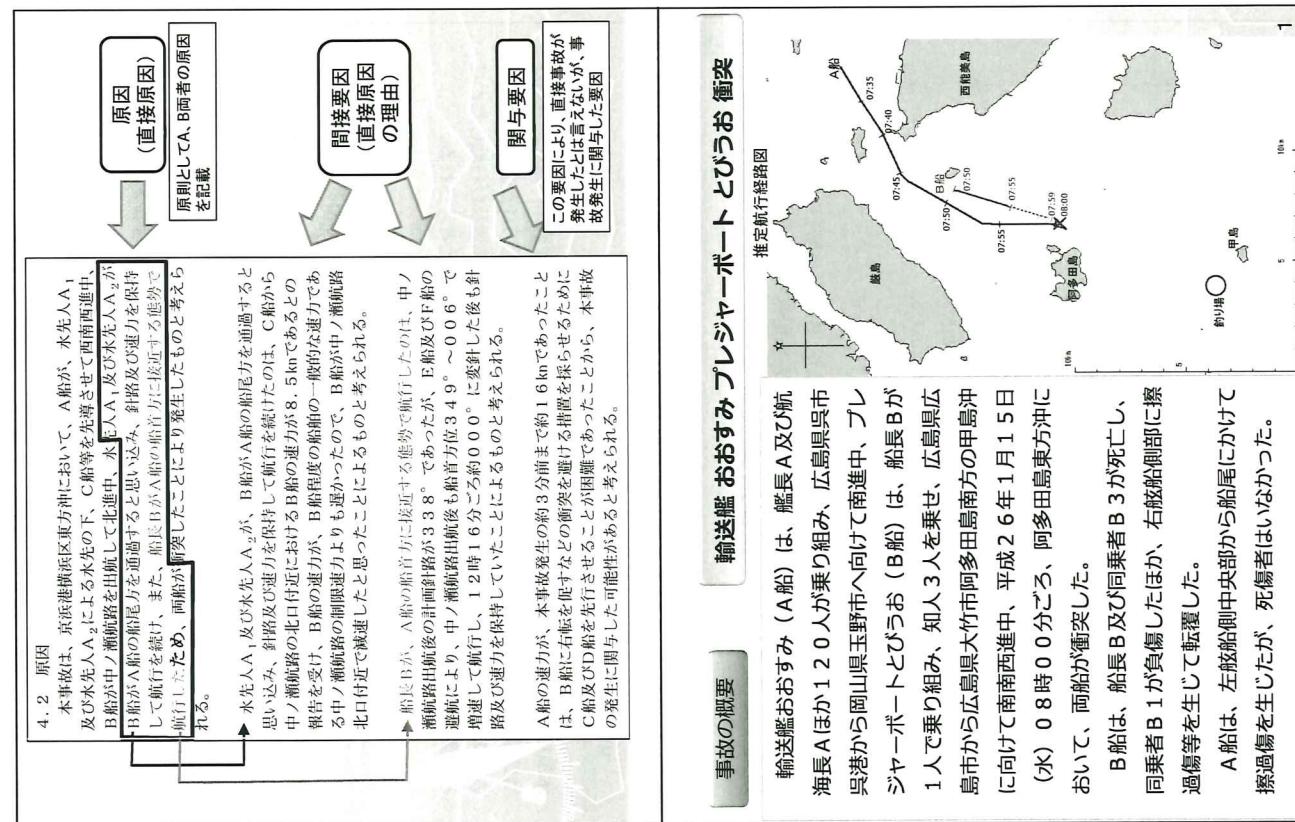
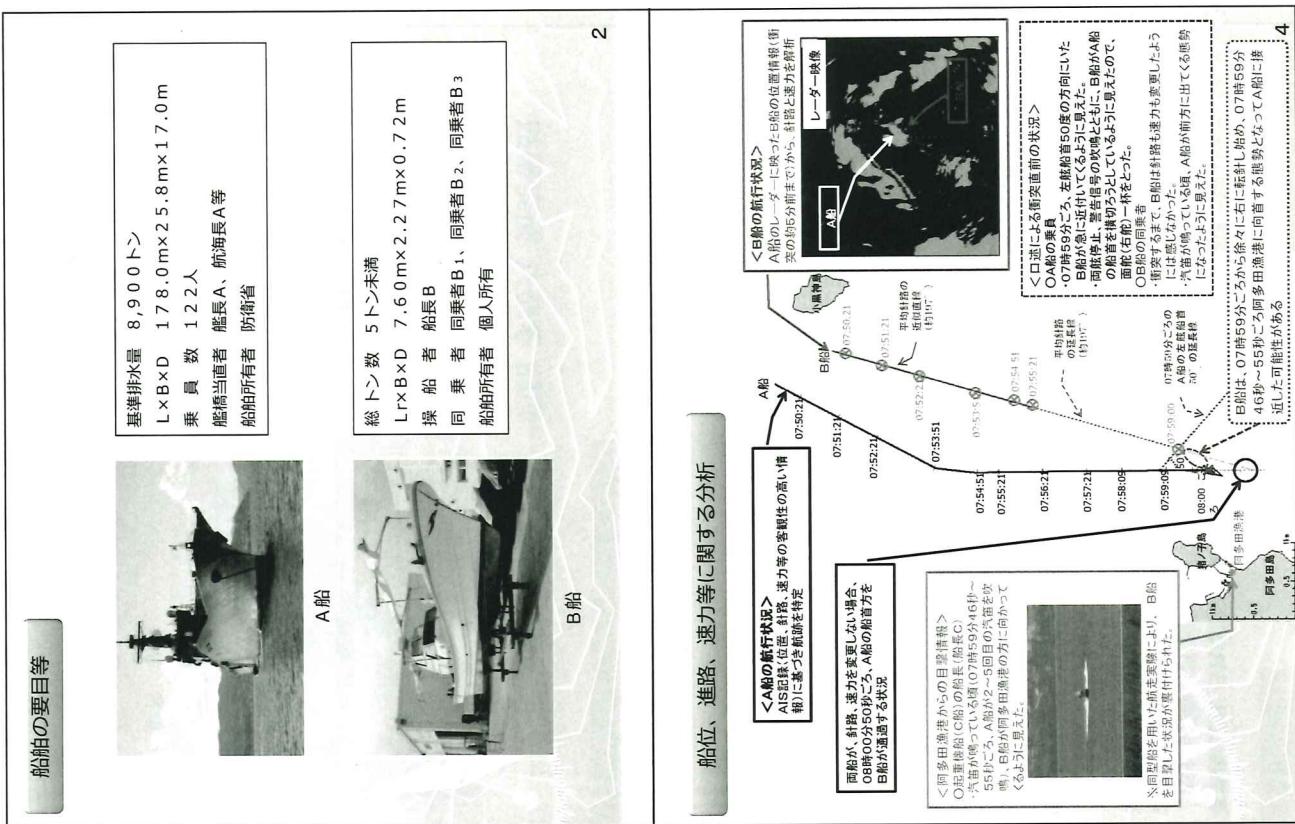
本報告書本文中「3 分析」に用いる分析の結果を表す用語は、次のとおりとする。

① 断定できる場合  
…認められる

AISやVDRデータ等の客観的な根柢がある場合に用いられる。

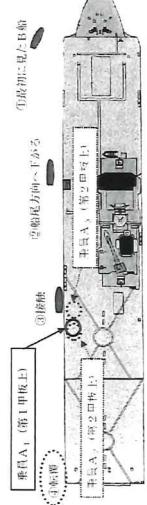
最もよく用いられる。個人の口述や記録（メモ）などが根柢の場合に用いられる。

食い違う口述や個人の心情など  
が根柢の場合に用いられる。



## 衝突の状況

乗員A<sub>1</sub>、乗員A<sub>3</sub>及び乗員A<sub>5</sub>は、B船が、汽笛を聞いた直後にA船の左舷船首50～60m付近から船首前方を横切るような針路で航行した後、左舷船首至近でA船の船側線に対して約20°～30°の角度を向いた状況からA船の船側線と平行する態勢となって船尾方向へ下がる状況になたのを目撃



A船は、約180°の針路から右転して減速中、また、B船は、A船と平行に近い船首方位となって減速又は停止中、A船の左舷船側中央部とB船の右舷船側部とが衝突したものと考えられる。

5

## 原因

本事故は、阿多田島東方沖において、A船が南進中、B船が南南西進中、A船が針路及び速力を保持して航行し、また、B船がA船の左舷前から右に転針してA船の船首至近に接近したため、A船が回避しようとして減速及び右転したところ、更に両船が接近して衝突したことにより発生したものと考えられる。

## その他判明した安全に関する事項

A船は、180°に変針した後、B船と衝突のおそれがないものの、距離が余りに近づく状況であったことから、B船との距離を広げるための減速が指示されいたが、衝突に至つたものと考えられ、より早い段階での減速、より大幅な減速を行うなど、海上自衛隊通航文書に基づき、小型船との接近に対応し得る余裕のある航行をするか、航行指針に基づき、衝突予防の見地から注意喚起信号を活用していれば、本事故の発生を回避できた可能性があると考えられる。

## 再発防止策

### 事故後に講じられた事故等防止策

海上自衛隊（護衛艦隊、潜水艦隊、練習艦隊及び掃海隊群）は、本事故を受け、各隊所属艦艇に対し、見張り、安全な速力、衝突のおそれの判断、衝突を避けるための動作等を徹底するよう注意喚起の電報を発信した。

### 今後必要とされる事故等防止策

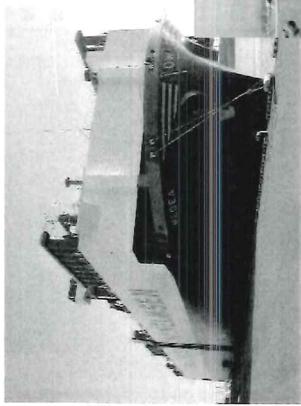
操縦者は、次のことに留意し、同種事故の再発防止に努めなければならない。

(1) 小型の船舶には、大型の船舶に次のような特性があることを踏まえ、その動静を適切に監視するとともに、大型の船舶の至近を通過しないこと

- ① 減速や停止に時間や距離を必要とする場合
  - ② 見掛けよりも高速で航行している場合があること
  - ③ 船橋から至近距離にいる小型の船舶が見えない場合があること
  - ④ 喫水が深いため、水深の浅い水域での航行が制限されること
- (2) 大型の船舶は、接近する小型の船舶に対し、その動静を適切に監視するとともに、自船の操縦性能を踏まえ、適切な時機に注意を喚起する信号等の措置をとること

## 貨物船 MEDEA 漁船 孝盛丸 衝突事故

### 水先人等とのコミュニケーション不足



事故発生日時  
平成22年3月18日20時30分ごろ  
事故発生場所  
愛知県名古屋港東航路南口沖

死傷者  
B船の船長と乗組員が軽傷を負った。

16

## 事故の概要

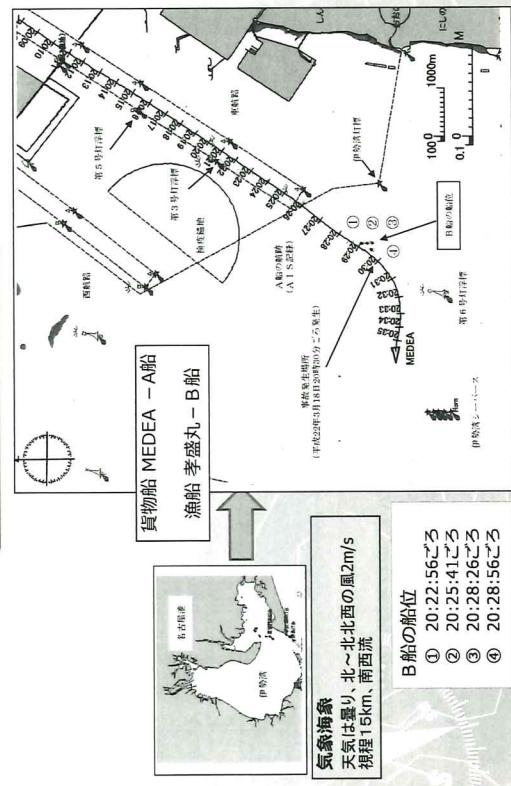
貨物船MEDEA(メディア)は、船長(ほか)24人が乗り組み、水先人の水先人により名古屋港の東航路南西沖を伊良湖水道北口付近に向けて南西進中、また、漁船孝盛丸(こうせい)丸は、船長(ほか)1人が乗り組み、伊勢湾灯標西方沖を伊勢湾北部の漁場へ向けて西進中、平成22年3月18日20時3分ごろ東航路南口沖において両船が衝突した。孝盛丸は、船長及び乗組員が負傷し、転覆した。また、MEDEAは船首部に深刻な損傷を生じた。

## 船舶の主要目

関係者	
船長A MEDEA (A船、シンガポール、50,681トン)	男性 56歳 船長免状 (シガ)★ -保継)
船舶所有者 船舶借入人 L×B×D	WALENTIUS LINES SINGAPORE PTE LTD WALENTIUS LINES SINGAPORE PTE LTD 197.91×32.25×11.29m
乗組員	水先人A1 伊良湖三河湾水先人区水先人免状 水先人A2 ハーバーバイロット 船員25人
孝盛丸 (B船、愛知県南知多町、4.8トン)	船長B 男性 62歳 一級小型船舶操縦士・特殊・特定 乗組員 B 個人所有 11.84×2.61×0.83m L×B×D 船員2人

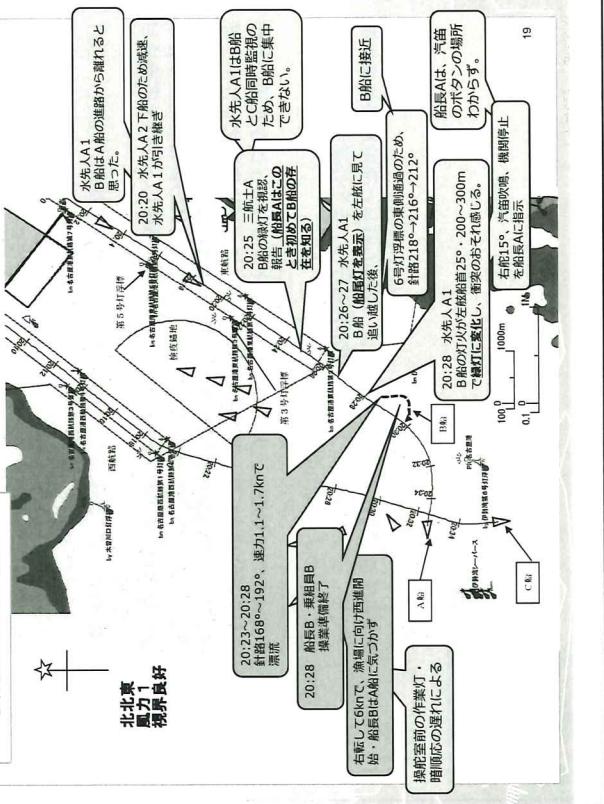
17

## 事故発生場所・気象海象



18

## 事故発生に至る経過



## 原因図

### A船

水先人A1が第6号灯浮標の東側を通過しようとして針路を左に変えてB船に接近することになった。

### B船

船長BがA船に気付かずA船の前路に向けて航行した。

漂泊して行っていた操業の準備作業を終了したとき、及び航走するために操船室に入つたとき、周囲の船舶の状況を肉眼で見たが、操船室前面等の作業灯を点灯しており、また、暗順応していなかったことから、肉眼で他船を視認することができ困難であつたこと、漂泊場所から約0.5NM西方の第6号灯浮標北方の漁場に向けて右転して西進を開始した。

20

**再発防止策**

**問題点**

- 両船舶長が、適切な見張りを行つていなかつた。
- 水先人A<sub>1</sub>、船長A及び三航士Aとの間でB船を含む他船の動静について情報の共有を行つていなかつた。

(1) [A社] 所有又は管理船舶の船員に、次のことを指導する。  
緊急時、直ちに汽笛を使ふよう乗組員に汽笛ボタンの場所を確認すること。  
 ① 水先人ととの間に船舶の情報を共有するようBRMの手法を積極的に活用すること。  
 ② 水先人との間に船舶の情報を共有するためのBRM技術の向上

(2) [水先へ会] 所属水先人に、次の教育・訓練を実施する。  
 ① 船員等と水先人との間で船舶の情報を共有し、安全運航ができるようBRMの手法を確実に実施するためのBRM技術の向上  
 ② IMO標準海事通信用語に関する技能の向上

(3) [日本水先人会連合会]  
5年ごとに行う水先人を対象とした安全研修等において、同水先人に対し、IMO標準海事通信用語に関する技能の向上に改めて努めるよう要請

21

**損傷状況等に関する情報**

**事故発生後の隔壁・甲板の損傷状況等**

**問題点**

- 左舷1番～2番貨物タンクの損傷
- 右舷3番～4番貨物タンクの損傷
- 床面等のさひ落としての損傷
- オイルハッチの状態

状況

① 左舷1番～2番貨物タンクの損傷  
状況

② 右舷3番～4番貨物タンクの損傷  
状況

③ オイルハッチの状態  
(ハッチが開放されていた)

**甲板上作業の内容**

① 左舷1番～2番貨物タンクの整備作業  
(ペンチやバーナーによって固定した蝶ねじをアスドーチバーナで差つて動くようにする作業)

② 多針タガネ

③ ディスクグラインダ

床面等のさひ落としての作業  
(ドリルやバグ等使用)

本船のオイルハッチと蝶ねじ(例)

ガストーチバーナ

蝶ねじ

**原因**

現在、分析中

**再発防止策**

事故後に講じられた事故防止策

- A社は、管理責任者を同社所属船に訪船させ、事故の概要と荷役及び整備作業を行なうに当たり、安全管理マニュアルの規定を遵守し、安全作業手順書に従つて安全に作業を行なうよう周知徹底を図った。
- A社は、安全管理マニュアルを次のとおり改訂した。
  - 高熱作業の分類を見直し、火花の発生するディスクグラインダを用いる作業など社会会員が直接監視できる体制とした。
  - 作業前に、貨物タンクの開錐状況の確認や可燃性ガスの有無を測定するなど、安全確認のための高熱作業チェックリストを作成し、これを実施させることとした。
- A社管理責任者は、安全管理マニュアルの改訂後、同社所属船に訪船し、改訂内容を周知し、これを確実に実施するよう指導した。

22

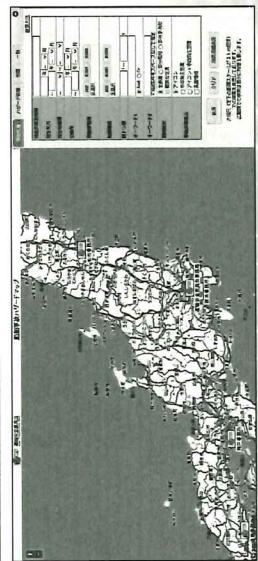
## 船舶事故ハザードマップを開く

船舶事故ハザードマップは、運輸安全委員会のホームページで公開しております。(URL : <http://itsb.mlit.go.jp/hazardmap/>)



JMSA

船舶事故  
ハザードマップ



船舶事故ハザードマップ

平成25年5月：公開  
平成25年9月：英語版公開  
平成26年4月：グローバル版公開

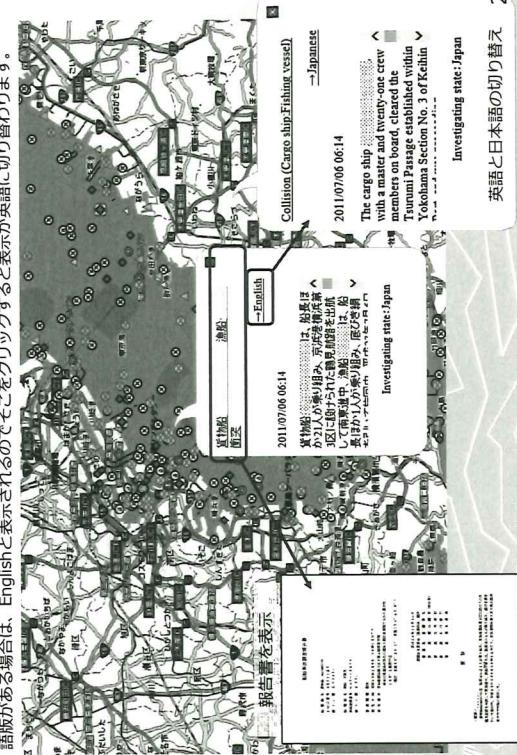
○船舶事故等が検索できる件数 約15,000件

○グローバル版で検索できる外国事故調査機関の報告書件数 約400件

25

## 東京湾の事故表示例

事故のマークをクリックすると吹き出しが表示されます。吹き出しへ中の一番上のリンクは報告書を表示、英語版がある場合は、Englishと表示されるのでそこをクリックすると表示が英語になります。



26



事 業 報 告



## 平成 26 年度第 8 回船積危険品研究委員会

1 日 時 平成 27 年 1 月 13 日 (火) 15:00 ~ 17:00

2 場 所 商船三井ビル 4 階 会議室

3 出 席 者 別紙のとおり

4 連 絡 事 項

5 議 題

(1) 検討個品について

(2) その他

6 資 料

席上配布

(1) 検討個品資料 1 修正箇所

樹脂液 (エポキシ樹脂キシレン溶液) / シクロペンタノン

2 2245 シクロペンタノン (1回目修正)

データ一覧

3 3238 二酸化セレン

データ一覧

(2) 資料 1 危一規則 別表第 1 の「積載方法」記載の変更

(3) 資料 2 危一規則 別表第 1 の「隔離」記載の変更

(4) 資料 3 官報 平成 26 年 12 月 22 日 号外第 288 号

(廣井委員長より)

7 議 事

事務局より出欠状況、資料の確認の後、廣井委員長により議事が進められた。

個品の検討に入る前に、資料 1 ~ 3 について概要の説明があった。

検討個品資料 1 樹脂液 (エポキシ樹脂キシレン溶液) 及び 2245 シクロペンタノンの修正箇所確認を行った。

2 2245 シクロペンタノン (1回目修正) は修正箇所の確認を行ない、検討を終了した。

3 3238 二酸化セレンの検討を行なった。次回も引き続き検討を行うこととなった。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) [ ] は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	廣 井 正 男	元神戸商船大学教授※
委 員	三 村 治 夫	神戸大学大学院海事科学研究科教授
"	児 玉 正 浩	(一財)海上災害防止センター西日本支所 キソ一化学分析センター長※
"	堤 義 晴	日本郵船㈱関西支店支店長代理※
"	國 友 雄 二	(株)商船三井海上安全部部長代理※ (代 白方 馨 海務監督)
"	慶 松 美 雄	日本沖荷役安全協会神戸支部専務理事・事務局長※ (代 藤原 外喜夫 安全管理部長)
"	山 根 健 次	(独)海上技術安全研究所 構造基盤技術系基盤技術研究グループ主任研究員
関 係 官 庁	徳 田 直 之	神戸運輸監理部海上安全環境部船舶安全環境課専門官
"	真 鍋 朗 宏	第五管区海上保安本部警備救難部環境防災課長 (代 伊藤 友希 第一災害対策係長)
"	坂 中 裕 司	第五管区海上保安本部交通部安全課長 (代 仲田 幸生 海務第二係専門員)
"	勝 部 光 人	大阪海上保安監部航行安全課長 (代 北野 隆志 専門官)
"	前 田 健 太	神戸海上保安部航行安全課長 (代 正木 直人 第一海務係専門員)
事 務 局	伊 藤 雅 之	公益社団法人神戸海難防止研究会常務理事
"	宮 島 照 仁	" 事業部長
"	藤 原 昇	" 事業部長補佐

# 大阪港の大型クルーズ客船の入出港にかかる 航行安全調査検討第1回委員会

1 日 時 平成27年1月27日(火)13:30～16:25

2 場 所 ラッセホール B1階 リリーの間

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

- (1) 調査方針について
- (2) 港湾計画（軽易な変更）について
- (3) 航行環境等について
- (4) ビジュアル式操船シミュレータ実験実施方案について

5 資 料

- (1) 検討資料委1-1 調査方針（案）
- (2) 検討資料委1-2 港湾計画（軽易な変更）の内容（案）
- (3) 検討資料委1-3 航行環境等（案）
- (4) 検討資料委1-4 ビジュアル式操船シミュレータ実験実施方案（案）
- (5) 参考資料 大阪湾内の船舶交通流解析（平成21年度）

席上配布資料

- (1) 検討資料委1-2 港湾計画（軽易な変更）の内容（案） 6頁
- (2) 検討資料委1-2 港湾計画（軽易な変更）の内容（案） 12頁
- (3) 検討資料委1-4 ビジュアル式操船シミュレータ実験実施方案（案）  
(全部差替え)
- (4) ビジュアル式操船シミュレーション評価シート（案）
- (5) 航泊の禁止及び航行等の制限

6 議 事

事務局より出席者の紹介、資料の確認の後、委員長の選任が行われ、井上 欣三氏が委員長に選任後、委託者として、大阪市港湾局 渡部 英朗 防災・施設担当部長の挨拶があった。

以後、井上 欣三委員長により議事が進められた。

7 審議結果

提示された検討資料は、委員会において出た意見、指摘等を盛り込み、一部文言の修正することを前提に了承された。

以上

## 別 紙

## 出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	井 上 欣 三	神戸大学名誉教授※
学識経験者	世 良 亘	神戸大学大学院海事科学研究科准教授※
海事関係者	福 永 昭 一	日本水先人会連合会会长
"	小 島 茂	(一社)日本船長協会会长
"	石 野 卓	(一社)日本外航客船協会安全対策委員会委員長
"	村 井 五 郎	大阪湾水先区水先人会会长※ (代 中島 敏行 副会長)
"	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
"	堤 義 晴	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
"	國 友 雄 二	(株)商船三井海上安全部長代理※
"	松 島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
"	田 渕 訓 生	全国内航タンカー海運組合関西支部長 (代 永石 大機 事務局長)
"	山 田 邦 雄	(公社)関西小型船安全協会会长 (代 天野 俊夫 事務局長)
"	藤 原 浩	大阪海運組合理事長 (代 香川 幹夫 専務理事)
"	寺 元 清 隆	大阪船主会副会長
"	寄 神 茂 之	日本押船土運船協会会长 (代 松村 孝一 業務委員)
"	安 藤 弘 道	大阪港運協会専務理事
"	白 野 哲 也	大阪フェリー協会専務理事
"	遠 藤 飾	全日本海員組合大阪支部長
関係官公庁	犬 藤 学	第五管区海上保安本部交通部長 (同席 仲田 幸生 安全課海務第二係専門員)
"	八 木 博 志	大阪海上保安監部長 (代 勝部 光人 航行安全課長) (同席 川北誠司 第一海務係員)

関係官公庁 稲田 雅裕 近畿地方整備局港湾空港部長  
(代 津田 行男 港湾空港整備・補償課長補佐)  
(同席 中川 憲二 港湾空港部港湾計画課計画第一係長)

〃 小濱 照彦 近畿運輸局海上安全環境部長  
(代 岩野 正義 首席運航労務監理官)

委託者 渡部 英朗 大阪市港湾局防災・施設担当部長  
〃 藏所 泰剛 〃 計画整備部計画担当係長  
〃 岩崎 哲也 〃 計画担当係員  
〃 寺尾 芳和 〃 振興担当課長代理  
〃 中島 信行 〃 振興担当係長  
〃 山本 忠正 〃 海務担当課長  
〃 黒田 剛 〃 海務担当係長  
〃 畦原 聰 〃 海務担当係員

オブザーバー 岡島 一浩 (株)東洋信号通信社関西地区担当マネジャー  
〃 釤田 穎之 〃 大阪港 グループリーダー

事務局 伊藤 雅之 (公社)神戸海難防止研究会常務理事  
〃 宮島 照仁 〃 事業部長  
〃 藤原 昇 〃 事業部長補佐  
〃 國安 政幸 (株)MOLマリン関西事務所長  
〃 豊島 伸匡 〃 主任研究員

# LNG船受入及び着離桟基準に係る航行安全対策調査第5回委員会

1 日 時 平成27年2月3日(火) 10:00～11:35

2 場 所 神戸メリケンパークオリエンタルホテル 銀河の間

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

(1) 第4回委員会議事概要について

(2) 安全性の検討Ⅱについて

(3) 航行安全対策について

(4) 調査報告書構成について

5 資 料

(1) 第4回委員会議事概要(案)

(2) 検討資料委5-1 安全性の検討Ⅱ(案)

(3) 検討資料委5-2 航行安全対策(案)

(4) 検討資料委5-3 調査報告書構成(案)

6 議 事

事務局より出欠者の報告、資料の確認後、岩瀬 潔委員長により議事が進められた。

7 審議結果

提示された検討資料は、委員会において出た意見、指摘等を盛り込み、一部文言の修正することを前提に了承された。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	岩瀬 潔	海技大学校教授※
委 員 員	広野 康平	神戸大学大学院海事科学研究科准教授※
"	日當 博喜	海上保安大学校名誉教授※
"	山田 登	内海水先区水先人会会长※ (代 斎藤 實 副会長) (同席 森岡 衛 副会長)
"	中島 敏行	大阪湾水先区水先人会副会長※
"	今西 邦彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
"	堤 義晴	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
"	國友 雄二	(株)商船三井海上安全部長代理※
"	松島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
関係官公庁	犬藤 学	第五管区海上保安本部交通部長 (同席 戸川 義徳 海務第二係長)
"	西垣 強	姫路海上保安部長 (同席 片山 敬義 交通課長)
"	田上 明彦	大阪湾海上交通センター所長 (代 草野 廣之 次長)
"	田中 稔	兵庫県国土整備部長 (代 宮内 勇児 土木局港湾課副課長)
委託者	A社・B社	
事務局	山本 幸典	(公社)神戸海難防止研究会専務理事
"	宮島 照仁	" 事業部長
"	竹村 太志	" 主任研究員
"	塔本 吉夫	" 事業部長補佐
"	中村 紳也	(株)日本海洋科学専務取締役
"	高橋 浩子	" 神戸支店主任コンサルタント
"	平田 裕一	" " コンサルタント

# 平成 26 年度 大型船の津波災害からの減災対策に関する調査研究 第 2 回委員会

1 日 時 平成 27 年 2 月 6 日 (金) 13:30 ~ 15:20

2 場 所 ラッセホール リリーの間

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

- (1) 検討対象の基本的な条件（第1回委員会確定版）について
- (2) 静的計算による評価結果について
- (3) 動揺シミュレーションによる評価結果について
- (4) 評価結果の比較について

5 資 料

資 料 (送付済み)

- (1) 検討資料委 2-1 係留する大型船への津波の影響評価の検討
  - 検討対象の基本的な条件（第1回委員会確定版）— (案)
- (2) 検討資料委 2-3 係留する大型船への津波の影響評価の検討
  - 動揺シミュレーションによる評価結果— (案)

席上配布資料

- (1) 検討資料委 2-1 係留する大型船への津波の影響評価の検討
  - 検討対象の基本的な条件（第1回委員会確定版）— (案)
  - 【全部差替え】
- (2) 検討資料委 2-2 係留する大型船への津波の影響評価の検討
  - 静的計算による評価結果— (案)
- (3) 検討資料委 2-4 係留する大型船への津波の影響評価の検討
  - 検討結果の比較・評価— (案)
- (4) 参考資料 係留する大型船への津波の影響評価の検討
  - 荷役設備に対する安全性の検討—

6 議 事

事務局により出席者の紹介、資料の確認後、久保 雅義委員長により議事が進められた。

7 審議結果

提示された検討資料は、委員会において出た意見、指摘等を盛り込み、一部文言の修正することを前提に了承された。

以 上

## 別 紙

## 出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	久 保 雅 義	神戸大学名誉教授※
委 員	小 林 英 一	神戸大学大学院海事科学研究科教授
"	松 本 宏 之	海上保安大学校教授※
"	堀 晶 彦	海技大学校教授※
"	中 島 敏 行	大阪湾水先区水先人会副会長※
"	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
"	堤 義 晴	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
"	國 友 雄 二	(株)商船三井海上安全部部長代理※
"	松 島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
関 係 官 庁	瀬 口 良 夫	第五管区海上保安本部警備救難部長 (代 横原 豊 環境防災課専門官)
"	犬 藤 学	第五管区海上保安本部交通部長 (代 吉本 秀幸 安全課専門官)
"	渡 辺 一 樹	第五管区海上保安本部海洋情報部長 (代 泉 紀明 海洋調査課長)
"	八 木 博 志	大阪海上保安監部長 (代 勝部 光人 航行安全課長)
"	徳 永 裕 之	神戸海上保安部長 (代 松本 勇 次長)
"	小 濱 照 彦	近畿運輸局海上安全環境部長
"	田 中 曜	神戸運輸監理部海上安全環境部長
"	稻 田 雅 裕	近畿地方整備局港湾空港部長 (代 川瀬 洋 港湾空港整備・補償課長)
"	井 上 博 瞳	大阪府港湾局長 (代 川路 修祐 総務企画課危機管理G課長補佐)
"	徳 平 隆 之	大阪市港湾局長 (代 黒田 剛 海務担当係長)
"	糟 谷 昌 俊	兵庫県県土整備部土木局長 (代 菅野 長久 港湾課計画振興班主幹)
"	吉 井 真	神戸市みなと総局長

事務局	山本幸典	公益社団法人 神戸海難防止研究会専務理事
〃	伊藤雅之	〃 常務理事
〃	宮島照仁	〃 事業部長
〃	藤原昇	〃 事業部長補佐
〃	國安政幸	(株)MOLマリン関西事務所長
〃	山口将人	〃 海洋技術コンサルティング一部研究員

# 平成26年度第9回船積危険品研究委員会

1 日 時 平成27年2月10日(火)13:00~15:00

2 場 所 商船三井ビル 4階 会議室

3 出 席 者 別紙のとおり

4 連絡事項

5 議 題

(1) 検討個品について

(2) その他

6 資 料

席上配布

(1) 検討個品資料 1 修正箇所 2245シクロペンタノン／3238二酸化セレン

2 2245 シクロペンタノン（2回目修正）

3 3238 二酸化セレン（1回目修正）

データ一覧

4 2811 ブロマジオロン

データ一覧

(2) 資 料 「IMDG CODE 2014」の収録内容の変更について(廣井委員長より)

7 議 事

事務局より出欠状況、資料の確認の後、廣井委員長により議事が進められた。

個品の検討に入る前に、資料について概要の説明があった。

検討個品資料 1 2245シクロペンタノン／3238二酸化セレンの修正箇所確認を行った。

2 2245シクロペンタノン（2回目修正）は前回の修正箇所の再確認を行ない、検討を終了した。

3 3238 二酸化セレン（1回目修正）は修正箇所の確認を行ない、検討を終了した。

4 2811 ブロマジオロンの検討を行なった。次回も引き続き検討を行うこととなった。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

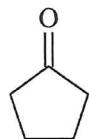
(順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	廣 井 正 男	元神戸商船大学教授※
委 員	三 村 治 夫	神戸大学大学院海事科学研究科教授
"	児 玉 正 浩	(一財)海上災害防止センター西日本支所 キソ一化学分析センター長※
"	堤 義 晴	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
"	國 友 雄 二	(株)商船三井海上安全部部長代理※ (代 白方 馨 海務監督)
"	慶 松 美 雄	日本沖荷役安全協会神戸支部専務理事・事務局長※ (代 藤原 外喜夫 安全管理部長)
"	山 根 健 次	(独)海上技術安全研究所 構造基盤技術系基盤技術研究グループ主任研究員
関 係 官 庁	徳 田 直 之	神戸運輸監理部海上安全環境部船舶安全環境課専門官
"	真 鍋 朗 宏	第五管区海上保安本部警備救難部環境防災課長
"	坂 中 裕 司	第五管区海上保安本部交通部安全課長 (代 仲田 幸生 海務第二係専門員)
"	勝 部 光 人	大阪海上保安監部航行安全課長 (代 川北 誠司 第一海務係員)
"	前 田 健 太	神戸海上保安部航行安全課長 (代 加藤 一也 専門官)
事 務 局	伊 藤 雅 之	公益社団法人神戸海難防止研究会常務理事
"	宮 島 照 仁	" 事業部長
"	藤 原 昇	" 事業部長補佐

国連番号
2245

シクロペンタノン



CYCLOPENTANONE



物質の特定

C A S 番 号 : 120-92-3

化 学 式 : C<sub>5</sub>H<sub>8</sub>O

別 名 : Adipic ketone; Ketocyclopentane; Ketopentamethylene  
(商品名) アジピンケトン; ケトシクロペンタン; ケトペンタメチレン

化 学 的 分 類 : 環状ケトン

規則名・法規等

[規則名] CYCLOPENTANONE  
シクロペンタノン

危一規則

分類・等級等: 引火性液体類 3 III

副次危険性等級: -

積載場所: 甲板上, 甲板下

コンテナ収納検査: 否 積付検査: 否

IMDG-CODE

分類・等級等: Class 3 III

副次危険性等級: -

積載場所: On deck, Under deck

CFR 172. 101

分類・等級等: 3 III

ラベルコード: 3

積載場所: On deck, Under deck

港 則 法：引火性液体類

荷役許容量：A / 10                  B / 250                  C1 / 1000                  C2 / 4000

海 防 法：-

消 防 法：第4類 第2石油類（非水溶性）

**船積上の注意事項**

**荷 姿** 危一規則規定によるものであること。

引火性液体類についての一般的注意事項に従うこと。

**物理／化学的性質**

外 観 等：無色液体

臭：特有のエーテル様臭。少しへパーミント様臭あり。

比重又は嵩比重：0.94869 (20/4°C)

蒸 気 比 重：2.9

融 点 (°C) : -58~-51

沸 点 (°C) : 130~131

溶 解 性：

水：微 (注1)

アルコール：可

エーテル：可

(注1) 0.918g/100ml (25°C)

**用 途**

精密機械部品、印刷機器、自動車部品などの油やワックスの洗浄剤。溶剤。医薬品、殺虫剤などの中間体

## 化学的危険性

腐食性：

人：なし

金属：なし

木材：なし

酸化性：なし

水／空気／  
熱の作用：

可燃性：あり

引火点(°C)：26(注2)

発火点(°C)：430

爆発限界(%)：1.3～10.8

特記事項：火災時、温度上昇などにより急激に重合し、容器が破裂するおそれがある。酸の存在下で容易に重合する。

(注2) IMDG-CODEでは31°C

E m S F-E, S-D

消火剤：水噴霧(棒状注水不可)，泡，炭酸ガス，粉末

検知法：可燃性ガス測定器による。

## 人体への影響

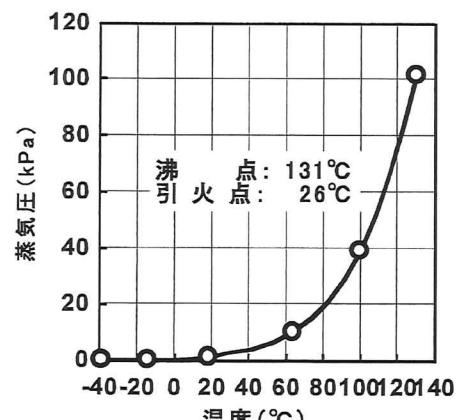
作業環境の 許容濃度 (TLV)	T W A	STEL	C(上限値)	経皮吸収	発がん性

毒性：LD<sub>50</sub> 1200mg/kg(経口ラット); LC<sub>50</sub> 19500mg/m<sup>3</sup>(吸入ラット)

蒸氣、粉塵 などを吸入 した場合	鼻、のどを刺激し、せき、頭痛、めまい、吐き気、咽頭痛などを生じる。高濃度の蒸氣は麻酔性がある。
飲み込ん だ場合	消化管を刺激し、吐き気、おう吐を起こす。
皮膚に付着 した場合	刺激し、発赤、痛みを起こす。
眼に入っ た場合	刺激し、発赤、痛みを起こす。

## 救急処置

蒸気、粉塵などを吸入した場合	直ちに新鮮な空気の場所に移し、保温安静に努め、医師の手当を受ける。要すれば、酸素吸入、人工呼吸を行う。
飲み込んだ場合	口をすすぐ。活性炭20gを水300mlとともに与えて後、30gの硫酸マグネシウムを水に溶かして飲ませ、医師の手当を受ける。無理に吐かせないこと。
皮膚に付着した場合	石けんと多量の水で十分に洗う。刺激が続くときは医師の手当を受ける。
眼に入った場合	流水で十分に洗った後、医師の手当を受ける。
漏洩した場合	火気厳禁とし、通風換気を十分に行い、保護具着用の上、破損箇所をシールし、不活性吸着材（バーミキュライト、砂又は土など）をまいて掃き取った後、大量の水で洗う。
保護器具	有機ガス用防毒マスク又は自給式呼吸具、保護衣、保護メガネ、保護手袋、保護長靴



シクロペンタノンの蒸気圧曲線

最終修正日

2015/02/12

# 大阪港の大型クルーズ客船の入出港にかかる航行安全調査検討 ビジュアル式操船シミュレータ実験

- 1 実施日 平成27年2月11日(水)、2月12日(木)
- 2 実施場所 (株)MOLマリン シミュレータセンター
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 シミュレータ実験実施内容

2月11日(水) (第1日目)

14:30~15:00 資料説明・実験概要等説明

15:00~16:00 ① ケースA-1

16:00~16:35 ② ケースA-2

16:35~17:10 ③ ケースA-3

(1日目終了)

2月12日(木) (第2日目)

08:30 集合

08:45~09:35 ④ ケースB-1

09:35~10:25 ⑤ ケースB-2

10:25~10:40 休憩

10:40~11:30 ⑥ ケースB-3

11:30~12:20 ⑦ ケースB-4

12:20~13:00 昼食

13:00~13:50 ⑧ ケースB-5

13:50~14:40 ⑨ ケースB-6

14:40~14:55 休憩

14:55~15:45 ⑩ ケースB-7

15:45~16:35 ⑪ ケースB-8

16:35~17:00 総評

17:00 解散

## 別 紙

## 出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略)

※海防研常任委員

部 会 長	世 良 亘	神戸大学大学院海事科学研究科准教授※
委 員	井 上 欣 三	神戸大学名誉教授※
"	村 井 五 郎	大阪湾水先区水先人会会长※ (代 中島 敏行 大阪湾水先区水先人会副会長)
"	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
"	堤 義 晴	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
"	國 友 雄 二	(株)商船三井海上安全部長代理※
"	松 島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
"	白 野 哲 也	大阪フェリー協会専務理事
操 船 者	小見山 純 郎	大阪湾水先区水先人会水先人
"	末 永 守	"
"	白 川 光 晴	"
関係官公庁	犬 藤 学	第五管区海上保安本部交通部長 (同席 戸川 義徳 海務第二係長)
"	八 木 博 志	大阪海上保安監部長 (同席 勝部 光人 航行安全課長)
委 託 者	渡 部 秀 朗	大阪市港湾局 防災・施設担当部長
"	畦 原 聰	" 計画整備部海務担当
事 務 局	伊 藤 雅 之	(公社)神戸海難防止研究会常務理事
"	宮 島 照 仁	" 事業部長

# 平成26年度和歌山下津港海岸（海南地区）工事に伴う 船舶航行安全対策検討調査第1回委員会

- 1 日 時 平成27年2月19日(木)13:30～15:20
- 2 場 所 神戸メリケンパークオリエンタルホテル 4階 海王の間
- 3 出 席 者 別紙のとおり
- 4 議 題
  - (1) 調査方針について
  - (2) 冷水防波堤工事施工概要について
  - (3) 海南地区の航行環境について
  - (4) 安全性の検討について
  - (5) 航行安全対策の考え方について
- 5 資 料
  - (1) 検討資料委1-1 調査方針(案)
  - (2) 検討資料委1-2 冷水防波堤工事施工概要(案)
  - (3) 検討資料委1-3 海南地区の航行環境(案)
  - (4) 検討資料委1-4 安全性の検討(案)
  - (5) 検討資料委1-5 航行安全対策の考え方(案)
  - (6) 参考資料-1 船尾防波堤工事に係る航行安全対策
- 6 議 事  
事務局より出席者の紹介、委託者として、近畿地方整備局 松田 康博 和歌山港湾事務所長の挨拶があった。  
資料の確認の後、委員長の選任が行われ、淺木 健司委員が委員長に選任された。  
以後、淺木 健司委員長により議事が進められた。
- 7 審議結果  
提示された検討資料は、委員会において出た意見、指摘等を盛り込み、一部文言の修正することを前提に了承された。

以 上

## 別 紙

## 出席者名簿

(順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	淺 木 健 司	海技大学校教授 ※
委 員	岩 瀬 潔	海技大学校教授 ※
"	世 良 亘	神戸大学大学院海事科学研究科准教授 ※
"	橋 本 孟 士	和歌山下津水先区水先人会会長 (代 清水 貢 副会長)
"	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問 ※
"	堤 義 晴	日本郵船(株)関西支店支店長代理 ※
"	國 友 雄 二	(株)商船三井海上安全部長代理 ※
"	松 島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長 ※
"	中 瀬 達 也	関西電力(株)燃料室燃料運用Gチーフマネージャー (代 三木 基実 海事担当部長)
"	北 村 靖 文	新日鐵住金(株)和歌山製鉄所副所長 (代 内匠屋 誠 設備部機械技術室スタッフ)
"	高 橋 信 之	和歌山石油精製(株)海南工場長
"	太 田 豊 隆	(公社)関西小型船安全協会和歌山支部長
関係官公庁	犬 藤 学	第五管区海上保安本部交通部長 (代 坂中 裕司 安全課長) (同席 仲田 幸生 海務第二係専門員)
"	土 師 亮	和歌山海上保安部長 (代 渡川 明 交通課長)
"	白 澤 節 範	海南海上保安署長
"	稻 田 雅 裕	近畿地方整備局港湾空港部長 (代 津田 行男 港湾空港整備・補償課課長補佐)
"	内 田 恵 介	和歌山県国土整備部港湾空港局長
"	奥 野 敏 彦	和歌山県和歌山下津港湾事務所長
委 託 者	松 田 康 博	近畿地方整備局 和歌山港湾事務所長
"	橋 本 良 介	" " 港湾施設分析評価官
"	鈴 木 慶二郎	" " 海岸課海岸係長

事務局	山本幸典	(公社)神戸海難防止研究会専務理事
//	伊藤雅之	// 常務理事
//	宮島照仁	// 事業部長
//	竹村太志	// 主任研究員
//	塔本吉夫	// 事業部長補佐

# 平成 26 年度 漁船・漁具操業位置情報の提供方法等に関する調査研究 第 3 回委員会

1 日 時 平成 27 年 2 月 24 日 (火) 13:30 ~ 15:10

2 場 所 パレス神戸 2 階 大会議室

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

(1) 第 1 回及び第 2 回委員会資料について

(2) 漁業操業位置情報の提供システムについて

5 資 料

(送付済み)

・検討資料委 3-1 第 1 回及び第 2 回委員会資料のまとめ(案)

・検討資料委 3-2 漁業操業位置情報の提供システムについて(案)

(席上配布資料)

・検討資料委 3-3 報告書構成

6 議 事

事務局から出欠者の報告、資料の確認後、岩瀬委員長により、議事が進められた。

7 審議結果

提示された検討資料は、委員会において出た意見、指摘等を盛り込み、一部文言の修正することを前提に了承された。

以 上

## 別 紙

## 出席者名簿

(順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	岩瀬 潔	海技大学校教授※
委 員	奥田 成幸	海技大学校教授
"	中島 敏行	大阪湾水先区水先人会副会長※
"	今西 邦彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
"	堤 義晴	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
"	國友 雄二	(株)商船三井海上安全部 部長代理※
"	松島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
"	白野 哲也	大阪フェリー協会専務理事
"	小森 茂典	(株)ゼニライトイ開発部次長 (代 吉田 基 特販部課長)
關係官公庁	犬藤 学	第五管区海上保安本部 交通部長 (代 坂中 裕司 安全課長) (同席 空野 哲平 海務第一係専門員)
"	小濱 照彦	近畿運輸局海上安全環境部長
"	田中 暁	神戸運輸監理部海上安全環境部長
"	北出 弘	大阪府環境農林水産部水産課長
"	近藤 敬三	兵庫県農政環境部農林水産局水産課長 (代 中岸 明彦 漁政班長)
事 務 局	赤岡 隆夫	(公社)神戸海難防止研究会会长
"	山本 幸典	" 専務理事
"	伊藤 雅之	" 常務理事
"	宮島 照仁	" 事業部長
"	塔本 吉夫	" 事業部長補佐
"	國安 政幸	(株)MOLマリン関西事務所長
"	豊島 伸国	" 主任研究員

# 大阪港航路泊地等整備に伴う航行安全対策検討調査

## 第3回委員会

1 日 時 平成27年2月25日(水)10:00～11:40

2 場 所 パレス神戸 2階 大会議室

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

- (1) 第2回委員会議事概要について
- (2) 安全性の検討について
- (3) 航行安全対策について
- (4) 報告書構成について

5 資 料 (送付済み)

- (1) 第2回委員会議事概要 (案)
- (2) 検討資料委3-1 安全性の検討 (案)
- (3) 検討資料委3-2 航行安全対策 (案)
- (4) 検討資料委3-3 報告書構成 (案)

席上配布資料

- (1) 第2回委員会議事概要 (案) 【全部差替え】
- (2) 検討資料委3-1 安全性の検討 (案) 【P1, P2, P7, P10, P11差替え】
- (3) 検討資料委3-2 航行安全対策 (案) 【全部差替え】
- (4) 検討資料委3-3 報告書構成 (案) 【全部差替え】

6 議 事

事務局から出欠者の報告、資料の確認後、井上委員長により、議事が進められた。

7 審議結果

提示された検討資料は、委員会において出た意見、指摘等を盛り込み、一部文言の修正することを前提に了承された。

以 上

## 別 紙

## 出席者名簿

(順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

※海防研常任委員

委員長	井上 欣三	神戸大学名誉教授※
学識経験者	岩瀬 潔	海技大学校教授※
海事関係者	村井 五郎	大阪湾水先区水先人会会長※ (代 中島 敏行 副会長)
"	今西 邦彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
"	堤 義晴	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
"	國友 雄二	(株)商船三井海上安全部部長代理※
"	松島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
"	田渕 訓生	全国内航タンカー海運組合関西支部長
"	興村 明仁	近畿旅客船協会会长 (代 森木 正文 事務局長)
"	山田 邦雄	(公社)関西小型船安全協会会长 (代 天野 俊夫 事務局長)
"	藤原 浩	大阪海運組合理事長 (代 香川 幹夫 専務理事)
"	寺元 清隆	大阪船主会副会長
"	寄神 茂之	日本押船土運船協会会长 (代 松村 孝一 業務委員)
"	安藤 弘道	大阪港運協会専務理事
"	白野 哲也	大阪フェリー協会専務理事
"	遠藤 飾	全日本海員組合大阪支部長
関係官公庁	犬藤 学	第五管区海上保安本部交通部長 (代 坂中 裕司 安全課長) (同席 仲田 幸生 海務第二係専門員)
"	八木 博志	大阪海上保安監部長 (同席 勝部 光人 航行安全課長 田中 崇博 第二海務係)
"	宮本 勝通	堺海上保安署長 (代 清水 景平 港務係長)
"	西尾 春基	岸和田海上保安署長 (代 森 光男 専門員)
"	稻田 雅裕	近畿地方整備局港湾空港部長 (代 平田喜久男 港湾空港整備・補償課港湾第一係長)

関係官公庁	薮 内 弘	大阪市港湾局計画整備部長 (代 黒田 剛 海務担当係長)
委 託 者	中 本 隆	近畿地方整備局 大阪港湾・空港整備事務所長
"	尾 上 博 文	" 工務課長
"	中 田 隆 史	" 保全課長
"	山 下 雄 生	" 保全課専門官
"	山 本 順 一	" 保全課保全係長
"	藤 倉 永 大	" 工務第二係長
オブザーバー	釘 田 穎 之	(株)東洋信号通信社大阪港グループリーダー
事 務 局	山 本 幸 典	(公社)神戸海難防止研究会専務理事
"	伊 藤 雅 之	" 常務理事
"	宮 島 照 仁	" 事業部長
"	竹 村 太 志	" 主任研究員
"	藤 原 昇	" 事業部長補佐
"	豊 島 伸 国	(株)MOLマリン関西事務所主任研究員

## 平成 26 年度近畿・四国地方海難防止強調運動推進連絡会議 地区推進母体連絡会議

1 日 時 平成26年3月2日（月）14：30～17：00

2 場 所 商船三井ビル 4階 会議室

3 出席者名簿 別紙のとおり

4 議 題

- (1) 平成 27 年度全国海難防止強調運動における地方重点項目及び地方運動について
- (2) 霧海難防止キャンペーンについて
- (3) その他

5 資 料

資料 1 会議次第、出席者名簿

資料 2 平成 27 年度全国海難防止強調運動における地方重点項目及び地方運動

資料 3 霧海難防止キャンペーン

6 議 事

事務局から出席者、資料の確認後、(公社)神戸海難防止研究会 山本幸典専務理事の挨拶の後、議事が進められた。

第五管区海上保安本部 交通部安全課 川端成記海務第一係長から資料 2、資料 3について説明が行われた。

また、議題 (3) その他について、事務局からのぼり等破損がみられることから、今年度中に交換したい旨の発言があった。

連絡会議終了後、海上保安大学校名誉教授 日當博喜氏並びに大阪ガス株式会社ガス製造・発電事業部生産企画チームマネジャー 菅野敦夫氏による講演が行われた。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略)

※海防研常任委員

構成員 (座長)	山 本 幸 典	(公社) 神戸海難防止研究会専務理事
構成員	西久保 滋	第五管区海上保安本部警備救難部救難課長
"	坂 中 裕 司	第五管区海上保安本部交通部安全課長 (同席 谷岡 敦 安全課専門官、 川端 成記 海務第一係長、 戸川 義徳 海務第二係長、 空野 哲平 海務第一係専門員、 小坂 和彦 交通部企画課企画業務係長)
"	勝 部 光 人	大阪地区海難防止強調運動推進連絡会議実務責任者 (大阪海上保安監部航行安全課長) (代 北野 隆志 航行安全課専門官)
"	前 田 健 太	兵庫県阪神淡路地区海難防止強調運動推進連絡会議実務責任者 (神戸海上保安部航行安全課長)
"	片 山 敬 義	播磨地区海難防止強調運動推進連絡会議実務責任者 (姫路海上保安部交通課長)
"	渡 川 明	和歌山北部地区海難防止強調運動推進連絡会議実務責任者 (和歌山海上保安部交通課長)
"	長 澤 孝 二	紀南地区海上安全対策協議会実務責任者 (田辺海上保安部交通課長)
"	森 本 整 吾	徳島地区海難防止強調運動推進連絡会議実務責任者 (徳島海上保安部交通課長)
"	増 井 和 英	高知地区海難防止強調運動推進連絡会議実務責任者 (高知海上保安部交通課長)
"	新 富 敏 隆	大阪湾海上交通センター運用管制課長
事務局	伊 藤 雅 之	(公社) 神戸海難防止研究会常務理事
"	塔 本 吉 夫	" 事業部長補佐
"	藤 原 升	" 事業部長補佐
"	菱 田 憲 次	(公財) 海上保安協会神戸地方本部事務局長

# 平成 26 年度第 10 回船積危険品研究委員会

1 日 時 平成27年3月3日(火)13:00～15:00

2 場 所 商船三井ビル 4階 会議室

3 出 席 者 別紙のとおり

4 連絡事項

5 議 題

(1) 検討個品について

(2) その他

6 資 料

席上配布

(1) 検討個品資料 1 修正箇所 3238二酸化セレン／2811ブロマジオロン

2 3238 二酸化セレン (2回目修正)

3 2811 ブロマジオロン (1回目修正)

データ一覧

4 3263 セトリミド

データ一覧

7 議 事

事務局より出欠状況、資料の確認の後、廣井委員長により議事が進められた。

検討個品資料 1 修正箇所 3238二酸化セレン／2811ブロマジオロンの修正箇所確認を行った。

2 3238 二酸化セレン (2回目修正) は前回の修正箇所の再確認を行ない、検討を終了した。

3 2811 ブロマジオロン (1回目修正) は修正箇所の確認を行ない、検討を終了した。

4 3263 セトリミドの検討を行なった。次回も引き続き検討を行うこととなった。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略)

※海防研常任委員

委 員 長	廣 井 正 男	元神戸商船大学教授※
委 員	三 村 治 夫	神戸大学大学院海事科学研究科教授
"	児 玉 正 浩	(一財)海上災害防止センター西日本支所 キソ一化学分析センター長※
"	堤 義 晴	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
"	國 友 雄 二	(株)商船三井海上安全部部長代理※ (代 白方 馨 海務監督)
"	慶 松 美 雄	日本沖荷役安全協会神戸支部専務理事・事務局長※ (代 藤原 外喜夫 安全管理部長)
"	山 根 健 次	(独)海上技術安全研究所 構造基盤技術系基盤技術研究グループ主任研究員
関 係 官 庁	徳 田 直 之	神戸運輸監理部海上安全環境部船舶安全環境課専門官
"	真 鍋 朗 宏	第五管区海上保安本部警備救難部環境防災課長 (代 伊藤 友希 第一災害対策係長)
"	坂 中 裕 司	第五管区海上保安本部交通部安全課長 (代 仲田 幸生 海務第二係専門員)
"	勝 部 光 人	大阪海上保安監部航行安全課長 (代 濱田 春菜 第一海務係員)
"	前 田 健 太	神戸海上保安部航行安全課長 (代 正木 直人 第一海務係専門員)
事 務 局	伊 藤 雅 之	公益社団法人神戸海難防止研究会常務理事
"	藤 原 昇	" 事業部長補佐

# 大阪港の大型クルーズ客船の入出港にかかる航行安全調査検討委員会 検討部会

1 日 時 平成27年3月6日(金)13:30～17:15

2 場 所 ラッセホール B1階 リリーの間

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

- (1) ビジュアル式操船シミュレータ実験結果について
- (2) その他の安全性の検討実施方案について
- (3) 安全性の検討（素案）について

5 資 料 (送付済み)

- (1) 検討資料部1－1 ビジュアル式操船シミュレータ実験結果（案）
- (2) 検討資料部1－2 その他の安全性の検討実施方案（案）
- (3) 検討資料部1－3 安全性の検討（素案）（案）
- (4) 参考資料 限界接岸速度・係留限界風速

席上配布資料

- (1) 検討資料部1－1 ビジュアル式操船シミュレータ実験結果（案）  
＜8ページ分差替え＞  
【P117, P119, P127, P129, P137, P139, P147, P149】
- (2) 検討資料部1－2 その他の安全性の検討実施方案（案）【全部差替え】
- (3) 参考資料1 船体運動モデルの概要
- (4) 参考資料2 スラスター及びアジポッドの操作回数及び使用時間

6 議 事

事務局から出欠者の報告、資料の確認後、世良 亘部会長により、議事が進められた。

以 上

## 別紙

## 出席者名簿

(順不同・敬称略)

※海防研常任委員

部会長	世良亘	神戸大学大学院海事科学研究科准教授※
学識経験者	井上欣三	神戸大学名誉教授※
海事関係者	村井五郎	大阪湾水先区水先人会会长※ (代 中島敏行 副会長)
"	今西邦彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
"	堤義晴	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
"	國友雄二	(株)商船三井海上安全部長代理※
"	松島豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
"	白野哲也	大阪フェリー協会専務理事
関係官公庁	犬藤学	第五管区海上保安本部交通部長 (代 坂中裕司 安全課長) (同席 戸川義徳 海務第二係長)
"	八木博志	大阪海上保安監部長 (代 勝部光人 航行安全課長) (同席 三木行治 第一海務係長)
"	稻田雅裕	近畿地方整備局港湾空港部長 (代 石田博 港湾計画課長補佐)
"	小濱照彦	近畿運輸局海上安全環境部長 (代 岩野正義 首席運航労務監理官)
委託者	黒田剛	大阪市港湾局 計画整備部 海務担当係長
"	藏所泰剛	" " 計画担当係長
"	中島信行	" " 振興担当係長
"	岩崎哲也	" " 計画担当係員
"	畦原聰	" " 海務担当係員
オブザーバー	釘田禎之	(株)東洋信号通信社大阪港グループリーダー
事務局	伊藤雅之	(公社)神戸海難防止研究会 常務理事
"	宮島照仁	" 事業部長
"	藤原昇	" 事業部長補佐
"	國安政幸	(株)MOLマリン関西事務所長

# 平成26年度和歌山下津港海岸（海南地区）工事に伴う 船舶航行安全対策検討調査第2回委員会

1 日 時 平成27年3月10日(火)14:00～15:25

2 場 所 パレス神戸 2階 大会議室

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

- (1) 第1回委員会議事概要について
- (2) 第1回委員会指摘事項修正について
- (3) 航行安全対策について
- (4) 報告書構成について

5 資 料

- (1) 第1回委員会議事概要(案)
- (2) 参考資料 第1回委員会指摘事項修正
- (3) 検討資料委2-1 冷水防波堤工事に係る航行安全対策(案)
- (4) 検討資料委2-2 報告書構成(案)

席上配布

席上配布1 検討資料委1-3 参考資料

席上配布2 検討資料委2-1 参考資料 11頁差替え

6 議 事

事務局から出欠者の報告、資料の確認後、淺木健司委員長により議事が進められた。

7 審議結果

提示された検討資料は、委員会において出た意見、指摘等を盛り込み、一部文言の修正することを前提に了承された。

以 上

## 別紙

## 出席者名簿

(順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

※海防研常任委員

委員長	淺木 健司	海技大学校教授 ※
委員	岩瀬 潔	海技大学校教授 ※
"	世良 亘	神戸大学大学院海事科学研究科准教授 ※
"	橋本 孟士	和歌山下津水先区水先人会会长
"	今西 邦彦	(一社)日本船長協会技術顧問 ※
"	堤 義晴	日本郵船(株)関西支店支店長代理 ※
"	國友 雄二	(株)商船三井海上安全部長代理 ※
"	松島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長 ※
"	中瀬 達也	関西電力(株)燃料室燃料運用Gチーフマネージャー (代 渡辺 泰 燃料室燃料運用グループリーダー)
"	北村 靖文	新日鐵住金(株)和歌山製鉄所副所長 (代 倉元 伸吾 総務部上席主幹)
"	高橋 信之	和歌山石油精製(株)海南工場長
"	太田 豊隆	(公社)関西小型船安全協会和歌山支部長
関係官公序	犬藤 学	第五管区海上保安本部交通部長 (代 坂中 裕司 安全課長) (同席 仲田 幸生 海務第二係専門員)
"	土師 亮	和歌山海上保安部長 (代 渡川 明 交通課長)
"	白澤 節範	海南海上保安署長 (代 岡林 晃 次長)
"	稻田 雅裕	近畿地方整備局港湾空港部長 (代 津田 行男 港湾空港整備・補償課課長補佐)
"	内田 恵介	和歌山県国土整備部港湾空港局長 (代 佐々木 規雄 港湾空港局港湾整備課長)
"	奥野 敏彦	和歌山県和歌山下津港湾事務所長
委託者	松田 康博	近畿地方整備局 和歌山港湾事務所長
"	朝木 祐次	" " 海岸課長
"	藤澤 一仁	" " 先任建設管理官
"	橋本 良介	" " 港湾施設分析評価官
"	鈴木 慶二郎	" " 海岸課海岸係長

事務局 山本幸典 (公社)神戸海難防止研究会専務理事  
〃 伊藤雅之 〃 常務理事  
〃 宮島照仁 〃 事業部長  
〃 竹村太志 〃 主任研究員  
〃 塔本吉夫 〃 事業部長補佐

## 平成 26 年度 大型船の津波災害からの減災対策に関する調査研究 第 3 回委員会

1 日 時 平成 27 年 3 月 12 日 (木) 13:30~15:00

2 場 所 ラッセホール リリーの間

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

- (1) 第 1 回委員会及び第 2 回委員会資料の修正等について
- (2) 南海トラフ巨大地震に伴う津波の係留船舶への影響の総合評価について
- (3) 簡易的評価手法の南海トラフ巨大地震に対する適合性、係留大型船の津波への対応のあり方及び今後の課題について
- (4) 評価結果の比較について

5 資 料

資 料 (送付済み)

- (1) 検討資料委 3-1 第 1 回及び第 2 回委員会資料 (修正等) (案)
- (2) 検討資料委 3-3 簡易的評価手法の南海トラフ巨大地震に対する適合性、係留大型船の津波への対応のあり方及び今後の課題 (案)
- (3) 検討資料委 3-4 報告書構成 (案)

席上配布資料

- (1) 検討資料委 3-2 南海トラフ巨大地震に伴う津波の係留船舶への影響の影響の総合評価について (案)
- (2) 検討資料委 3-1 第 1 回及び第 2 回委員会資料 (修正等) (案) (P72 差替え)
- (3) 検討資料委 3-3 簡易的評価手法の南海トラフ巨大地震に対する適合性・係留大型船の津波への対応のあり方及び今後の課題 (案)  
〈5 ページ分差替え〉【P7, P8, P9, P10, P11】

6 議 事

事務局により出席者の紹介、資料の確認後、久保 雅義委員長により議事が進められた。

7 審議結果

提示された検討資料は、委員会において出た意見、指摘等を盛り込み、一部文言の修正することを前提に了承された。

以 上

## 別 紙

## 出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) [ ] は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	久 保 雅 義	神戸大学名誉教授※
委 員	小 林 英 一	神戸大学大学院海事科学研究科教授
"	松 本 宏 之	海上保安大学校教授※
"	堀 晶 彦	海技大学校教授※
"	中 島 敏 行	大阪湾水先区水先人会副会長※
"	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
"	堤 義 晴	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
"	國 友 雄 二	(株)商船三井海上安全部部長代理※
"	松 島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
関 係 官 庁	瀬 口 良 夫	第五管区海上保安本部警備救難部長 (代 伊藤 友希 環境防災課第一災害対策係長)
"	犬 藤 学	第五管区海上保安本部交通部長 (代 吉本 秀幸 安全課専門官)
"	渡 辺 一 樹	第五管区海上保安本部海洋情報部長 (代 泉 紀明 海洋調査課長)
"	八 木 博 志	大阪海上保安監部長(代 勝部 光人 航行安全課長)
"	徳 永 裕 之	神戸海上保安部長(代 松本 勇 次長) (同席 加藤 一也 航行安全課専門官)
"	小 濱 照 彦	近畿運輸局海上安全環境部長
"	田 中 曜	神戸運輸監理部海上安全環境部長
"	稻 田 雅 裕	近畿地方整備局港湾空港部長 (代 津田 行男 港湾空港整備・補償課課長補佐)
"	井 上 博 瞳	大阪府港湾局長 (代 川路 修祐 総務企画課危機管理G課長補佐)
"	徳 平 隆 之	大阪市港湾局長(代 黒田 剛 海務担当係長)
"	糟 谷 昌 俊	兵庫県国土整備部土木局長 (代 檜 達也 港湾課計画振興班)
"	吉 井 真	神戸市みなと総局長 (代 小林 弘幸 みなと振興部海務課長)

事務局	赤岡 隆夫	公益社団法人 神戸海難防止研究会会長
//	山本 幸典	// 専務理事
//	伊藤 雅之	// 常務理事
//	宮島 照仁	// 事業部長
//	藤原 昇	// 事業部長補佐
//	國安 政幸	(株)MOLマリン関西事務所長
//	山口 将人	// 海洋技術コンサルティング一部研究員

# 平成26年度明石海峡航行操船への津波の影響に関する調査研究 第2回委員会

1 日 時 平成27年3月20日(金)13:30~15:40

2 場 所 ラッセホール 地下1階 リリーの間

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

- (1) ビジュアル式操船シミュレータ実験実施方案の変更について
- (2) ビジュアル式操船シミュレーション結果の比較・評価について

5 資 料

- (1) 検討資料委2-1 ビジュアル式操船シミュレーション実施方案の変更について(案)
- (2) 検討資料委2-2 ビジュアル式操船シミュレーション実施結果(案)
- (3) 検討資料委2-3 ビジュアル式操船シミュレーション実施結果の比較・評価(案)
- (4) 参考資料 ビジュアル式操船シミュレーション実施方案－第1回委員会資料－

席上配布資料

- (1) 席上配布資料1 検討資料委2-2 差し替え(P6、P37、P44)
- (2) 席上配布資料2 検討資料委2-3 差し替え(P9、P12)
- (3) 席上配布資料3 検討資料委2-3 追加資料(P15~P19)

6 議 事

事務局により出席者の紹介、資料の確認後、長澤 明委員長により議事が進められた。

7 審議結果

提示された検討資料は、委員会において出た意見、指摘等を盛り込み、一部文言の修正することを前提に了承された。

以 上

## 別 紙

## 出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	長 澤 明	海上保安大学校名誉教授※
委 員	岩 瀬 潔	海技大学校教授※
"	世 良 亘	神戸大学大学院海事科学研究科准教授※
"	山 田 登	内海水先区水先人会会长※
"	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
"	加 藤 琢 二	神戸旅客船協会会长 (代 山内 昭二 ジャンボフェリー(株)船長)
"	堤 義 晴	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
"	國 友 雄 二	(株)商船三井海上安全部部長代理※
"	松 島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
関係官公庁	犬 藤 学	第五管区海上保安本部交通部長 (同席 戸川 義徳 海務第二係長)
"	渡 辺 一 樹	第五管区海上保安本部海洋情報部長 (同席 泉 紀明 海洋調査課長)
"	徳 永 裕 之	神戸海上保安部長 (代 松本 勇 次長) (同席 加藤 一也 航行安全課専門官)
"	田 上 明 彦	大阪湾海上交通センター所長 (代 新富 敏隆 運用管制課長)
"	田 中 曜	神戸運輸監理部海上安全環境部長
事 務 局	山 本 幸 典	(公社)神戸海難防止研究会専務理事
"	伊 藤 雅 之	" 常務理事
"	宮 島 照 仁	" 事業部長
"	國 安 政 幸	(株)MOLマリン関西事務所長

## 大阪港の大型クルーズ客船の入出港にかかる 航行安全調査検討第2回委員会

1 日 時 平成27年3月27日(金)13:30～16:55

2 場 所 パレス神戸 2階 大会議室

3 出 席 者 別紙のとおり

4 議 題

- (1) 第1回委員会議事概要について
- (2) 検討部会報告について
- (3) ビジュアル式操船シミュレータ実験結果について
- (4) その他の安全性の検討について
- (5) 港湾計画の妥当性の検討について
- (6) 運用上の課題と安全性の検討について
- (7) 安全対策について
- (8) 報告書構成について

5 資 料

- (1) 第1回委員会議事概要 (案)
- (2) 検討資料委2-1 ビジュアル式操船シミュレータ実験結果 (案)
- (3) 検討資料委2-2 その他の安全性の検討 (案)
- (4) 検討資料委2-3 港湾計画の妥当性の検討 (案)
- (5) 検討資料委2-4 運用上の課題と安全性の検討 (案)
- (6) 検討資料委2-5 安全対策 (案)
- (7) 検討資料委2-6 報告書構成 (案)

席上配布資料

- (1) 検討資料委2-6 報告書構成 (案)
- (2) 検討資料委2-6 安全対策 (案) P4差替え
- (3) 検討資料委2-2 その他の安全性の検討(案) (P28～P31差替え)

6 議 事

事務局から出欠者の報告、資料の確認後、井上委員長により議事が進められた。

7 審議結果

提示された検討資料は、委員会において出た意見、指摘等を盛り込み、一部文言の修正することを前提に了承された。

以 上

## 別 紙

## 出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) [ ] は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	井 上 欣 三	神戸大学名誉教授※
学識経験者	世 良 亘	神戸大学大学院海事科学研究科准教授※
海事関係者	福 永 昭 一	日本水先人会連合会会长
"	小 島 茂	(一社)日本船長協会会长
"	石 野 卓	(一社)日本外航客船協会安全対策委員会委員長
"	村 井 五 郎	大阪湾水先区水先人会会长※ (代 望月 誠 水先人)
"	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
"	堤 義 晴	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
"	國 友 雄 二	(株)商船三井海上安全部長代理※
"	松 島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
"	田 渕 訓 生	全国内航タンカー海運組合関西支部長 (代 永石 大機 事務局長)
"	山 田 邦 雄	(公社)関西小型船安全協会会长 (代 天野 俊夫 事務局長)
"	藤 原 浩	大阪海運組合理事長 (代 香川 幹夫 専務理事)
"	寺 元 清 隆	大阪船主会副会長
"	寄 神 茂 之	日本押船土運船協会会长 (代 松村 孝一 業務委員)
"	安 藤 弘 道	大阪港運協会専務理事
"	白 野 哲 也	大阪フェリー協会専務理事
"	遠 藤 飾	全日本海員組合大阪支部長 (代 松本 順一 副支部長)
関係官公庁	犬 藤 学	第五管区海上保安本部交通部長 (同席 仲田 幸生 安全課海務第二係専門員)
"	八 木 博 志	大阪海上保安監部長 (代 勝部 光人 航行安全課長) (同席 三木 行治 第一海務係長)
"	稻 田 雅 裕	近畿地方整備局港湾空港部長 (代 石田 博 港湾計画課課長補佐)
"	小 濱 照 彦	近畿運輸局海上安全環境部長

委託者	渡部英朗	大阪市港湾局防災・施設担当部長
"	藏所泰剛	" 計画整備部計画担当係長
"	岩崎哲也	" " 計画担当係員
"	中島信行	" " 振興担当係長
"	黒田剛	" " 海務担当係長
"	畠原聰	" " 海務担当係員
オブザーバー	釤田禎之	(株)東洋信号通信社大阪港 グループリーダー
事務局	山本幸典	(公社)神戸海難防止研究会専務理事
"	伊藤雅之	" 常務理事
"	宮島照仁	" 事業部長
"	塔本吉夫	" 事業部長補佐
"	國安政幸	(株)MOLマリン関西事務所長
"	豊島伸匡	" 主任研究員



会務報告



## 第25回 業務運営会議

1 日 時 平成27年1月21日(水)12:00~13:30

2 場 所 商船三井ビル 4F 会議室

3 出 席 者 (順不同・敬称略)

議 長	赤 岡 隆 夫	(公社)神戸海難防止研究会会长
構 成 員	鈴 木 三 郎	神戸大学名誉教授
"	山 田 登	内海水先区水先人会会长
"	稻 岡 俊 一	(株)商船三井執行役員 (代 國友 雄二 海上安全部部長代理)
"	村 井 五 郎	大阪湾水先区水先人会会长
"	小 島 茂	(一社)日本船長協会会长 (代 今西 邦彦 技術顧問)
"	門 野 英 二	川崎汽船(株)常務執行役員 (代 松島 豊 関西支店副支店長)
"	酒 井 隆 司	日本郵船(株)関西支店長 (代 堤 義晴 関西支店長代理)
"	改 発 康 一	神鋼物流(株)顧問
事 務 局	山 本 幸 典	(公社)神戸海難防止研究会専務理事
"	伊 藤 雅 之	(公社)神戸海難防止研究会常務理事
"	板 坂 茂 良	(公社)神戸海難防止研究会総務部長
"	宮 島 照 仁	(公社)神戸海難防止研究会事業部長
"	中 谷 和 人	(公社)神戸海難防止研究会事業部長補佐

### 4 議 題

- (1) 業務報告等について
- (2) 内閣府による公益社団法人立入検査結果報告について
- (3) その他

### 5 資 料

席上配布

資料1 業務報告等

資料2 内閣府による公益社団法人立入検査結果報告

### 6 議事概要

赤岡議長の挨拶があり、引き続き議事に入った。

議題(1)業務報告等について、山本専務理事から説明があり、特に意見はなかった。

引き続き、山本専務理事から議題(2)内閣府による公益社団法人立入検査結果の報告があった。

以 上

## 第26回 業務運営会議

1 日 時 平成27年2月18日(水)12:00~12:35  
2 場 所 商船三井ビル 4F 会議室  
3 出 席 者 (順不同・敬称略) [REDACTED] は欠席

議 長	赤岡 隆夫	(公社)神戸海難防止研究会会長
構 成 員	鈴木 三郎	神戸大学名誉教授
〃	山田 登	内海水先区水先人会会長
〃	稻岡 俊一	(株)商船三井執行役員
〃	村井 五郎	大阪湾水先区水先人会会長
〃	小島 茂	(一社)日本船長協会会长 (代 今西 邦彦 技術顧問)
〃	門野 英二	川崎汽船(株)常務執行役員 (代 松島 豊 関西支店副支店長)
〃	酒井 隆司	日本郵船(株)関西支店長 (代 堤 義晴 関西支店長代理)
〃	改発 康一	神鋼物流(株)顧問
事務局	山本 幸典	(公社)神戸海難防止研究会専務理事
〃	伊藤 雅之	(公社)神戸海難防止研究会常務理事
〃	板坂 茂良	(公社)神戸海難防止研究会総務部長
〃	宮島 照仁	(公社)神戸海難防止研究会事業部長
〃	中谷 和人	(公社)神戸海難防止研究会事業部長補佐

### 4 議題

(1) 業務報告等について

(2) その他

### 5 資料

席上配布

資料 業務報告等

### 6 議事概要

赤岡議長の挨拶があり、引き続き議事に入った。

議題(1) 業務報告等について、山本専務理事から説明があり、特に意見はなかった。

議題(2) その他は事務局としては特に無かった。

以上

## 第27回 業務運営会議

- 1 日 時 平成27年3月19日(木)12:00~13:05  
2 場 所 商船三井ビル 4F 会議室  
3 出 席 者 (順不同・敬称略)
- |       |       |                                    |
|-------|-------|------------------------------------|
| 議 長   | 赤岡 隆夫 | (公社)神戸海難防止研究会会长                    |
| 構 成 員 | 鈴木 三郎 | 神戸大学名誉教授                           |
| "     | 山田 登  | 内海水先区水先人会会长                        |
| "     | 稻岡 俊一 | (株)商船三井執行役員<br>(代 國友 雄二 海上安全部部長代理) |
| "     | 村井 五郎 | 大阪湾水先区水先人会会长                       |
| "     | 小島 茂  | (一社)日本船長協会会长<br>(代 今西 邦彦 技術顧問)     |
| "     | 門野 英二 | 川崎汽船(株)常務執行役員<br>(代 松島 豊 関西支店副支店長) |
| "     | 酒井 隆司 | 日本郵船(株)関西支店長<br>(代 堤 義晴 関西支店長代理)   |
| "     | 改発 康一 | 神鋼物流(株)顧問                          |
| 事務局   | 山本 幸典 | (公社)神戸海難防止研究会専務理事                  |
| "     | 中谷 和人 | (公社)神戸海難防止研究会事業部長補佐                |

### 4 議 題

- (1) 業務報告等について
- (2) 平成27年度常任調査研究委員の委嘱について
- (3) 定款等の変更について
- (4) その他

### 5 資 料

席上配布

- 資料1 業務報告等
- 資料2 常任調査研究委員名簿
- 資料3 定款等の変更

### 6 議事概要

赤岡議長の挨拶があり、引き続き議事に入った。

議題(1)業務報告等について、山本専務理事から説明があり、特に意見はなかった。

引き続き、山本専務理事から議題(2)、議題(3)について説明が行われた。議題(4)その他、次回の業務運営会議等の開催予定日について説明があった。

以 上

## ○ 事務日誌抄

(H27. 1. 1～H27. 3. 31)

月 日	曜 日	時 間	委 員 会 名	実 施 場 所
1. 13	(火)	1500	平成26年度第8回船積危険品研究委員会	商船三井ビル4F会議室
1. 21	(水)	1200	第25回業務運営会議	商船三井ビル4F会議室
1. 27	(火)	1330	大阪港の大型クルーズ客船の入出港にかかる航行安全調査検討第1回委員会	ラッセホール
1. 27	(火)	1500	第25回月例会	こうべまちづくり会館
2. 3	(火)	1000	LNG船受入及び着離桟基準に係る航行安全対策調査第5回委員会	メリケンパークオリエンタルホテル
2. 6	(金)	1330	平成26年度大型船の津波災害からの減災対策に関する調査研究第2回委員会	ラッセホール
2. 10	(火)	1300	平成26年度第9回船積危険品研究委員会	商船三井ビル4F会議室
2. 11	(水)	1430	大阪港の大型クルーズ客船の入出港にかかる航行安全調査検討ビジュアル式操船シミュレータ実験	(株)MOLマリン
～12	(木)	1700	第26回業務運営会議	
2. 18	(水)	1200	平成26年度和歌山下津港海岸(海南地区)工事に伴う船舶航行安全対策検討調査第1回委員会	商船三井ビル4F会議室
2. 19	(木)	1330	平成26年度和歌山下津港海岸(海南地区)工事に伴う船舶航行安全対策検討調査第1回委員会	メリケンパークオリエンタルホテル
2. 23	(月)	1500	第26回月例会	こうべまちづくり会館
2. 24	(火)	1330	平成26年度漁船・漁具操業位置情報の提供方法等に関する調査研究第3回委員会	パレス神戸
2. 25	(水)	1000	大阪港航路泊地等整備に伴う航行安全対策検討調査第3回委員会	パレス神戸
3. 2	(月)	1430	平成26年度近畿・四国地方海難防止強調運動推進連絡会議地区推進母体連絡会議	商船三井ビル4F会議室
3. 3	(火)	1300	平成26年度第10回船積危険品研究委員会	商船三井ビル4F会議室
3. 6	(金)	1330	大阪港の大型クルーズ客船の入出港にかかる航行安全調査検討委員会検討部会	ラッセホール
3. 10	(火)	1400	平成26年度和歌山下津港海岸(海南地区)工事に伴う船舶航行安全対策検討調査第2回委員会	パレス神戸
3. 12	(木)	1330	平成26年度大型船の津波災害からの減災対策に関する調査研究第3回委員会	ラッセホール
3. 19	(木)	1200	第27回業務運営会議	商船三井ビル4F会議室
3. 20	(金)	1330	平成26年度明石海峡航行操船への津波の影響に関する調査研究第2回委員会	ラッセホール
3. 24	(火)	1500	第27回月例会	こうべまちづくり会館
3. 27	(金)	1330	大阪港の大型クルーズ客船の入出港にかかる航行安全調査検討第2回委員会	パレス神戸

## ○ お 知 ら せ

2015.4. 1～6. 30の間「霧海難防止キャンペーン」が実施されています。



2015.4.1.wed  
→ 6.30.tue

# 近畿・四国地方 海難防止強調運動 海上保安協会ノハーン

第10回もじもば  
118番

近畿・四国地方海難防止強調運動推進連絡会議

事務局：公益社団法人 神戸海難防止研究会  
公益財団法人 海上保安協会神戸地方本部

# 霧五戒してますか?

## Five Requests to Navigation in The Dense Fog

### 1. 気象状況を早期に把握すべし Grasp weather conditions early

最新の気象・海象情報を把握しましょう。  
Grasp the latest weather condition.



### 2. 船舶間コミュニケーションを促進すべし

VHFや汽笛信号等を活用する Keep watch on VHF(ch16)  
大阪湾海上交通センターから、通航船舶の安全のため緊急に情報を提供することがあります。  
視界の状況に関係なく、常時VHF電話(ch16)を聴守しましょう。  
Vessels navigating through Akashi Kaikyo and the adjoining area are requested to keep watch on VHF(ch16), regardless of the state of visibility, for Osaka Wan Traffic Advisory Service Center may provide urgent traffic information for maritime traffic safety.

### 3. 航法を守るべし Observe conduct of vessels in restricted visibility

見張り強化(船橋当直の増員)、レーダーの適切な使用、安全な速力での航行、音響信号の励行、機関用意、早期の適切な避航。  
Keep a sharp lookout (increase in personnel), Use radar suitably, Proceed at safe speed, Use sound signals, Stand-by engine, Take early action to avoid collision observing good seamanship.

### 4. 自動操舵装置を適正に使用すべし Use an automatic pilot properly

視界制限状態になったら、速やかに手動操舵に切り替えましょう。  
Start manual steerage promptly in or near the area of restricted visibility.



### 5. 早期に避泊すべし Anchor early in the safe sea area

無理な航行・操業を止め、視界の回復を待ちましょう。  
Anchor early in safe area, and wait for the recovery of visibility.

#### 霧通報

明石海峡、友ヶ島水道、鳴門海峡、阪神・姫路・和歌山下津各港において視程が2,000メートル以下となった場合、随時放送しています。

VHFch12、国際・日本語ナブテックス  
AIS情報、五管区内の各海上保安部MICS(HP)

#### 大阪湾海上交通センターからの情報提供

VHFch14、ch22  
ラジオ放送1651kHz(日本語)、2019kHz(英語)  
TEL:0799-82-3040  
HP:<http://www6.kaiho.mlit.go.jp/osakawan/>  
※ 携帯電話からのアクセス HP:<http://www6.kaiho.mlit.go.jp/osakawan/m/>

#### 船舶気象通報中短波無線放送

大阪、潮岬、足摺岬、室戸岬における気象・海象1670.5kHz

#### 船舶気象通報

【テレフォンサービス】  
(大阪湾及び播磨灘) ... TEL:078-334-2177  
(徳島県沿岸) ..... TEL:0739-23-3177  
(和歌山県沿岸) ..... TEL:0885-35-1177  
(高知県沿岸) ..... TEL:088-837-8177

#### FOG INFORMATION

When the visibility in Akashi Kaikyo, Tomogashima Suido, Naruto Kaikyo and Port of Hanshin, Himeji, Wakayama-Shimotsu is reduced less than 2,000 meters, Fog information is broadcasted as follows.

- 1.F3E 156.6MHz(CH12) In English
- 2.NAVTEX
- 3.AIS Information

#### INFORMATION from Osaka Wan Traffic Advisory Service Center

- 1.F3E 156.7MHz(CH14), 161.7MHz(CH22) In English
- 2.H3E 2,019kHz Every hour 00-15 min and 30-45 min In English

#### 【MICS情報(沿岸域情報提供システム)】

- パソコン  
<http://www6.kaiho.mlit.go.jp/05kanku/>
- 携帯電話  
<http://www6.kaiho.mlit.go.jp/m/index.html>



リンク先バーコード